

平成22年度 事業報告書

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

学校法人大阪電気通信大学

1 法人の概要

1 建学の理念・精神

本学園の起源は、1941年に創設された東亜電気通信工学校にさかのぼり、大学としての起源は1958年に創設された大阪電気通信短期大学が直接的前身となります。当時、大阪電気通信短期大学における電子工学科の開設は、東京大学・大阪大学の電子工学科の開設と同時で、私学としてはわが国初のことでした。さらに、電子工学はわが国の工業立国の礎となるとの認識の下、産業界からは専門技術者育成のための4年制大学が切望され、結果3年後の1961年に大阪電気通信大学が創設されました。大阪電気通信大学は2011年に開学50周年を迎えるにあたり、次の新たな50年を刻むため、これまでの伝統を継承しつつ新しい「理念」を構築いたしました。我々はこれを本学にご理解ご支援くださるすべてのみなさまに表明し、大学躍進の礎としてその取り組みに努めることを誓います。

<基本理念>

1. 大阪電気通信大学は、大阪電気通信大学人としての人間像を目指し、我々学生・教職員すべてが切磋琢磨して共に学ぶ場です。
2. 我々は手と頭と心を同時に動かす実践型教育を重視します。
3. 我々は不断に学びを続け、自己の成長に努力を惜しまない姿勢を貫きます。

<目指す人間像>

1. 基礎的人間力を備え、実際の課題を解決できる現実的対応力を磨き、自律的に自己を成長させる人。
2. 個性を発揮し、自らの役割を、責任を持って果たし、社会に貢献する人。
3. 自らに誇りを持ち、心豊かな生活を営み、人間的完成を目指す人。

<教職員の行動指針>

大阪電気通信大学を支えるべく我々教職員は、先に掲げる理念を遂行するため、ここにその行動指針を表明します。

1. 基本理念を実現するため、日々時代の変化に応じて改革を怠りません。
2. 常にユニークな大学を目指し、学生には他にない付加価値を教授・提供します。
3. 絶えず学生起点を心掛け、有意義な学生生活を支援します。
4. 教職員は本学を支える貴重な資産であり、それぞれの価値を向上し、その成果を学生に還元します。
5. 本学の歴史と将来を重んじ、地域をはじめ社会全体への貢献を志します。

2 沿革

2011.4	大学開学 50 周年 大学工学部環境科学学科開設 駅前キャンパス完成
2009.4	大学工学部電子工学科を電気電子工学科に学科名称変更 金融経済学部アセット・マネジメント学科開設
2008.4	医療福祉工学部健康スポーツ科学学科開設
2007.4	大学院医療福祉工学研究科博士後期課程開設 大学院総合情報学研究科博士後期課程開設 大学院総合情報学研究科メディア情報文化学専攻をデジタルアート・アニメーション学専攻に名称変更 大学工学部第 1 部を工学部に学部名称変更 大学工学部基礎理工学科開設
2006.4	大学院工学研究科電子通信工学専攻博士前期・後期課程開設 大学院総合情報学研究科コンピュータサイエンス専攻修士課程開設 大学工学部第 1 部環境技術学科開設 大学医療福祉工学部理学療法学科開設 大学工学部第 1 部電子材料工学科を応用化学科に学科名称変更

	大学情報通信工学部光システム工学科を光・エレクトロニクス学科に学科名称変更 大学総合情報学部メディア情報文化学科をデジタルアート・アニメーション学科に学科名称変更
2005.4	大学院医療福祉工学研究科医療福祉工学専攻修士課程開設 大学院総合情報学研究科デジタルゲーム学専攻修士課程開設 大学工学部第1部通信工学科、光システム工学科、総合情報学部情報工学科を改組転換し、情報通信工学部開設 大学総合情報学部メディアコンピュータシステム学科開設
2004.4	大学院総合情報学研究科メディア情報文化学専攻修士課程開設 大学工学部第1部医療福祉工学科廃止 大学医療福祉工学部医療福祉工学科開設
2003.4	大学総合情報学部デジタルゲーム学科開設
2002.4	大学工学部第1部および工学部第2部知能機械工学科を機械工学科に学科名称変更 短期大学部電子情報学科第1部を電子情報学科に学科名称変更
2002.7	短期大学部第2部を廃止
2001.4	大学工学部第1部に医療福祉工学科を開設
2001.3	短期大学部専攻科電子情報工学専攻を廃止
2000.4	大学情報工学部を総合情報学部に学部名称変更 大学総合情報学部メディア情報文化学科開設
1999.12	大学工学部経営工学科を廃止
1998.4	大学工学部第2部開設 大学工学部を工学部第1部に学部名称変更 文部省より私立大学学術フロンティア推進拠点に選定される
1997.4	大学工学部電子物性工学科を電子材料工学科に学科名称変更 大学工学部応用電子工学科を光システム工学科に学科名称変更
1996.4	大学工学部精密工学科を知能機械工学科に学科名称変更
1995.4	大学工学部経営工学科の改組・転換により情報工学部情報工学科を開設 短期大学部に専攻科・電子情報工学専攻を開設
1992.4	大学院工学研究科博士課程（後期）開設 総合電子工学専攻、制御機械工学専攻、情報工学専攻の3専攻を設置
1990.4	大学院工学研究科博士課程（前期）開設 総合電子工学専攻、制御機械工学専攻、情報工学専攻の3専攻を設置 短期大学部電子工学科を電子情報学科に学科名称変更
1987.10	大学創立25周年、短大創立30周年記念事業の一環として四條畷学舎を開設
1975.4	大学工学部精密工学科応用電子工学科開設
1973.9	学校法人大阪電気通信学園を学校法人大阪電気通信大学と改称
1965.4	大学工学部電子物性工学科、電子機械工学科、経営工学科開設
1962.5	短期大学を大阪電気通信大学短期大学部に名称変更
1962.4	大学工学部通信工学科開設
1961.4	大阪電気通信大学工学部電子工学科開設
1959.4	短期大学電子工学科第2部開設
1958.4	大阪電気通信短期大学電子工学科第1部開設
1958.1	法人名を大阪電気通信学園と改称
1951.5	財団法人を学校法人に改編。校名を大阪電気通信高等学校と改称
1948.4	東亜電気通信工学校が新制工業高等学校に昇格、校名を東亜電気通信高等学校と改称
1941.4	東亜電気通信工学校ならびに大阪高等通信工学院を開設

3 設置学校等

学校法人名：学校法人大阪電気通信大学

理事長：福田 國彌（フクダ クニヤ）

設置学校名：大阪電気通信大学

所在地： 〒572-8530 大阪府寝屋川市初町18-8（寝屋川キャンパス）

〒572-0837 大阪府寝屋川市早子町12-16（駅前キャンパス）

〒575-0063 大阪府四條畷市清滝1130-70（四條畷キャンパス）

学 長：都倉 信樹（トクラ ノブキ）

設置学校名：大阪電気通信大学高等学校

所在地： 〒570-0039 大阪府守口市橋波西之町1-5-18（守口キャンパス）

校 長：多田 保信（タダ ヤスノブ）

4 役員及び教職員に関する情報（平成23年3月31日現在）

（1）役 員

理事 16 人（うち、理事長1人、副理事長1人）

監事 2 人

（2）教 員

大阪電気通信大学

	専 任				非常勤
	教 授	准教授	講 師	計	
工 学 部	40	17	9	66	109
医療福祉工学部	16	10	4	30	54
情報通信工学部	16	9	6	31	26
総合情報学部	22	13	5	40	28
金融経済学部	7	2	4	13	8
計	101	51	28	180	225

大阪電気通信大学高等学校

専 任	非常勤
教 諭	
51	25

（3）職 員

大阪電気通信大学

区 分	人 数
職 員	87
嘱 託 職 員	17
計	104

大阪電気通信大学高等学校

区 分	人 数
職 員	4

2 事業の概要

1 平成22年度に実施した主な事業

①大学

■施設設備関係

ア. 駅前学舎新築工事

寝屋川市駅東地区第二種市街地再開発事業において、特定建築者として建設を進めてきた教育文化施設棟は、土地面積約1,200平方メートル、建物7階建て（延べ床面積約4,700平方メートル）を有し、平成23年1月に竣工しました。

総事業費 2,443,420千円

土地 534,000千円

建物 1,686,715千円

設備 222,705千円

うち、平成22年度事業費は、1,194,332千円

イ. 高宮学舎V号館実験室等改修工事及び太陽光発電システム設置工事

平成23年度 工学部環境科学科開設に備え、高宮学舎V号館の実験室等を改修するとともに太陽光発電システムを導入しました。平成23年度には、化学実験室等設備導入を予定です。

平成22年度事業費 90,113千円

ウ. 学務システムの再構築並びに全学部Web履修対応費

平成22年度事業費 305,339千円

エ. 寝屋川学舎B号館撤去に伴うインフラ設備移設工事 121,546千円

■教育研究活動関係

ア. 大学教育・学生支援推進事業（学生支援推進プログラム）

平成21年度、文部科学省の大学教育・学生支援推進事業（学生支援推進プログラム）に、「自己データベースを用いたキャリア教育による就職支援プログラム」が採択されました。

平成22年度事業費 13,700千円（事業は、平成23年度までの3年間）

イ. 戦略的大学連携支援事業

文部科学省大学改革推進等補助金「戦略的大学連携支援事業」に、本学を含む関西の5つの私立・国立大学による申請『広域大学連携による「臨床医工学・情報学」高度人材育成システムの構築』が選定されました。

平成22年度補助事業経費 95,000千円（5大学分）

代表校 武庫川女子大学

連携校 奈良先端科学技術大学院大学・大阪薬科大学・関西大学・大阪電気通信大学

ウ. 受託調査研究

学外から受託した受託調査研究は、22件。事業費総額 54,209千円。

エ. 奨学寄付金

教育研究の援助を目的として特定の対象を指定して本学に寄付された奨学寄付金は、13件。
寄付金総額 7,150千円。

なお、日本私立学校振興・共済事業団の受配者指定寄付金制度を利用したものは、11件。

総額 5,350千円。

オ. 科学研究費補助金

文部科学省助成の科学研究費補助金は、採択件数32件。事業費総額 76,600千円。

②高校

■施設設備関係

ア. 守口学舎体育館外部修理補修工事 15,750千円

イ. 守口学舎B号館2階職員室改修及び什器備品工事 12,618千円

ウ. 守口学舎C305第10実習室構築費（学校教育設備整備費等補助金対象） 10,237千円

2 教育研究の概要

(1) 設置する学校・学部・学科等（平成23年3月31日現在）

大阪電気通信大学

大学院工学研究科

博士課程（前期・後期）

総合電子工学専攻、電子通信工学専攻、制御機械工学専攻、情報工学専攻

大学院医療福祉工学研究科

博士課程（前期・後期）

医療福祉工学専攻

大学院総合情報学研究科

博士課程（前期・後期）

コンピュータサイエンス専攻

大学院総合情報学研究科

修士課程

デジタルアート・アニメーション学専攻、デジタルゲーム学専攻

工学部

電気電子工学科、応用化学科、電子機械工学科、機械工学科、環境技術学科、基礎理工学科、通信工学科(※)、光システム工学科(※)、電子工学科(※)、機械工学科(※)

工学部第2部

医療福祉工学部

医療福祉工学科、理学療法学科、健康スポーツ科学科

情報通信工学部

情報工学科、通信工学科、光・エレクトロニクス学科(※)

総合情報学部

デジタルアート・アニメーション学科、デジタルゲーム学科、メディアコンピュータシステム学科、情報工学科(※)

金融経済学部

アセット・マネジメント学科

※改組転換による学生募集停止

大阪電気通信大学高等学校

普通科

電子工業科

(2) 教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報（平成23年3月31日現在）

工学部

氏名	職階	学位	主な研究テーマ・主な活動
電気電子工学科 Department of Electrical and Electronic Engineering			
生田 孝	教授	工学博士	能動型画像処理に関する研究／コンピュータ応用計測に関する研究
伊與田 功	教授	工学博士	スマートグリッドに用いられる電力用パワーエレクトロニクス機器の解析研究／超低・高調波等の電力品質と太陽光発電等の分散電源の相互作用の研究／電力系統解析
岡崎 芳	教授	工学博士	VLSI回路と設計手法の研究／システムの集積化に関する研究
河村 嘉顯	教授	工学博士	応答信号を用いた最適制御の研究／確率システム最適化の研究
越川 孝範	教授	工学博士	低エネルギー電子顕微鏡・光電子顕微鏡・高性能イオン散乱法および走査トンネル顕微鏡を用いたナノ構造形成過程の研究
瀧川 靖雄	教授	工学博士	環境電子材料に関する研究／水素吸蔵合金作製と応用研究／ダイヤモンドライカーボン作製と応用研究
富岡 明宏	教授	理学博士	有機超薄膜と半導体量子構造の光・電気物性と近接場光学
藤崎 紘久	教授	医学博士	医用画像処理と画像データベースの構築／生体情報計測とその発生機序の解析
松浦 秀治	教授	工学博士	次世代半導体に関する研究／太陽電池に関する研究／可搬型X線検出器の開発・研究
海老原 聡	准教授	工学博士	地下環境／土木／資源探査に対する新たな電磁波計測法の開発と研究
渡邊 俊彦	准教授	工学博士	ソフトコンピューティングに関する研究／機械学習に関する研究

氏名	職階	学位	主な研究テーマ・主な活動
*応用化学科 Department of Applied Chemistry			
阿久津 典子	教授	理学博士	表面の統計熱力学とシミュレーション、結晶成長理論
榎本 博行	教授	工学博士	省エネ型伝導性ナノ複合材料の開発
川口 雅之	教授	工学博士	環境負荷の少ない機能性材料の作製と電池などへの応用
中村 初夫	教授	工学博士	X線スペクトルと物質の電子状態に関する研究
西岡 昇	教授	理学博士	機能性高分子材料の開発およびその物性研究
青沼 秀児	准教授	工学博士	機能性有機分子の合成とその電子物性に関する研究
湯口 宜明	准教授	工学博士	多糖類を利用した薬物輸送担体の創製
齊藤 安貴子	講師	博士(学術)	食品中のポリフェノールの機能解明/健康維持につながる機能性分子の開発

氏名	職 階	学 位	主な研究テーマ・主な活動
電子機械工学科 Department of Electro-Mechanical Engineering			
安 弘	教 授	工学博士	光応用計測に関する研究／自律移動ロボットの研究／多軸NC加工システムの研究
岸岡 清	教 授	工学博士	光デバイスに関する研究／光集積回路の理論的および実験的研究
木村 一郎	教 授	工学博士	計測の推定問題／可視化情報計測／画像認識／デザイン支援システム
竹田 晴見	教 授	工学博士	太陽光発電・蓄電システムの研究／エタノール発電・蓄電システムの研究／人工臓器用非接触給電システムの開発
田中 宏明	教 授	工学博士	分子動力学による超精密加工に関する研究
森下 克己	教 授	工学博士	ファイバ形光デバイスの研究／光デバイス製法と特性調節法の開発
新関 雅俊	准教授	工学博士	図形・形状処理／ソリッドモデリング／コンピュータグラフィックス
入部 正継	講 師	工学博士	受動的歩行ロボットの設計論に関する研究／力学的な性質を利用したロボット制御に関する研究
鄭 聖熹	講 師	情報科学博士	安全で器用な人支援ロボットシステムの研究

氏名	職 階	学 位	主な研究テーマ・主な活動
機械工学科 Department of Mechanical Engineering			
石井 徳章	教 授	工学博士	水力大形構造物の動的安全設計に関する研究／空調機用圧縮機の最適設計に関する研究
宇田 豊	教 授	工学博士	超精密機器のシステム構成／機械要素の性能評価
小笹 俊博	教 授	工学博士	火花点火エンジンの熱効率向上に関する研究／エンジン軸受の弾性流体潤滑解析
小見山 彰	教 授	工学博士	光ファイバ・光導波路の理論的および実験的研究／イメージファイバによる画像伝送に関する研究
島田 尚一	教 授	工学博士	ナノメートルレベルの高精度な機器および加工技術の開発／高機能材料の開発
西原 一嘉	教 授	工学博士	小型送風機の低騒音化／義手・義足・車椅子の開発／CADによる設計製図教育
森 幸治	教 授	工学博士	エネルギーの有効利用と環境保全技術の研究開発
脇 裕之	准教授	工学博士	先端工業材料の破壊機構の解明
吉田 晴行	講 師	工学博士	作業応用を目的とした人間型ロボットの全身運動計画／義足足部・足継手部の構造強度・機能試験機の開発

氏名	職 階	学 位	主な研究テーマ・主な活動
*環境技術学科 Department of Environmental Technology			
河合 秀夫	教 授	工学博士	錯視図形を対象とした視知覚解析／錯視情景道路解析によるITSへの応用
高岡 大造	教 授	工学博士	工場排水の再生・浄化技術の開発
徳島 耕次	教 授	工学博士	騒音低減／金属粉末の衝撃成形
林内 賀洋	教 授	工学博士	植物電場の検出
加藤 常員	准教授	理学博士	人文科学への情報処理技術の応用に関する研究
中田 亮生	准教授	工学博士	可視化手法を応用した熱流動計測
光本 浩士	准教授	工学博士	環境画像計測
添田 晴生	講 師	工学博士	放射冷房システムの省エネルギー化に関する研究／潜熱蓄熱材に関する研究

氏名	職 階	学 位	主な研究テーマ・主な活動
基礎理工学科 Department of Engineering Science			
大野 宣人	教 授	理学博士	半導体・イオン結晶・誘導体の光物性
奥村 康昭	教 授	学術博士	琵琶湖とカンボジアの環境モニタリング
坂田 定久	教 授	工学博士	常微分方程式
西村 純一	教 授	理学博士	可換代数学
原田 融	教 授	理学博士	理論核物理／ハドロン少数体系の物理
福田 共和	教 授	理学博士	原子核物理学
萬代 武史	教 授	理学博士	ウェーブレット解析／特性的初期値問題と零解／退化した偏微分方程式の解の構造
元場 俊雄	教 授	理学博士	ハイパー原子核構造論とバリオン間相互作用
安江 常夫	教 授	工学博士	表面・ナノ物理学
木村 和広	准教授	学術博士	無限次元解析／量子場の理論
中村 拓司	准教授	理学博士	位相幾何学
山原 英男	准教授	理学博士	偏微分方程式
吉松 屋四郎	准教授	理学博士	微分幾何
尾花 由紀	講 師	博士(理学)	磁気圏物理学／宇宙天気
竹居 正登	講 師	理学博士	確率論：パーコレーション、ランダムグラフ、ランダムウォーク
溝井 浩	講 師	理学博士	エネルギー走査型核反応検出器の開発と核反応の研究

氏名	職 階	学 位	主な研究テーマ・主な活動
人間科学研究センターThe Center for Research in the Humanities			
足立 英郎	教 授		憲法／教育法／アメリカ法
岩本 宗治	教 授		
小田 康德	教 授	博士(文学)	日本近代史／公害問題史
坂井 清泰	教 授		青年期障害者の発達／学校から社会への移行(トランジション)／大学における青年期発達障害者に対する支援
王 少鋒	准教授	博士(社会学)	比較文化論
金田 啓稔	准教授		生涯スポーツ参与の諸因に関する研究
川地 亜弥子	准教授	博士(教育学)	教育方法学／生活綴方／教室と実生活の結合に関する研究
坂本 知宏	准教授		哲学・倫理学
森石 峰一	准教授		情報教育
高橋 保則	講 師		スポーツ授業の指導法／生涯スポーツ
平沼 博将	講 師		乳幼児期の描画活動の分析／「保育の質」を高める実践記録づくり／保育・教育における接続問題／ベトナムにおける障害児教育・福祉の課題／平和問題としての発達保障
村木 有也	講 師		バイオメカニクス(スポーツ活動中の身体動作に関する研究)

氏 名	職 階	学 位	主な研究テーマ・主な活動
英語教育センター Center for English Education			
草本 康司郎	教 授		英語の文法
山崎 純一	教 授		外国語としての英語教育法
柏原 郁子	准教授	文学修士	英文学・英語教育学
宮尾 正夫	准教授		日英両語の対照研究
立本 秀洋	講 師		アメリカ文学
松田 正貴	講 師	博士(文学)	現代イギリス文学

※ 2011年4月、応用化学科、環境技術学科より環境科学科（Department of Environmental Science）へ改組予定

医療福祉工学部

氏 名	職 階	学 位	主な研究テーマ・主な活動
医療福祉工学部 Department of Biomedical Engineering			
海本 浩一	教 授	工学博士	臨床工学技術の医療応用／透析モニタリングシステムの開発と血液浄化材料の生体適合性に関する研究、機能水の生成と利用に関する研究
兼宗 進	教 授	システムズ・マネジメント博士	情報科学技術教育／教育用プログラミング言語、コンピュータ科学の教育手法、ロボット制御学習教材
長倉 俊明	教 授		f内科学、医用工学および医療情報学／生体エネルギーを利用した自動制御機能を有する医用工学機器開発、新しい画像診断支援システムの開発、病院・医用工学デザイン
細野 剛良	教 授	医学博士	幼若時低酸素虚血脳障害に対する医学的・理学的治療と行動学的評価、体温調節に関わる生体システムの解析、産婦人科的観点からのQOLを改善するための医工学的研究
松村 雅史	教 授	工学博士	首もとで健康を診断する携帯医療機器（組込みシステム）／ネックバンド型心電計、ストレス低減を目指す爆笑計、摂食嚥下機能と生活リズムを分析するライフレコーダーの開発
森本 正治	教 授	工学博士	義肢装具による身体運動機能再建／磁性流体ブレーキ組込高機能下肢装具の開発研究、義肢装具と下肢障害者の力学的適合性の計測・評価・最適化、国際標準化
新川 拓也	准教授	工学博士	リビングテクノロジー（くらしの技術）／「食」と「調理」のICT活用計測技術、次世代コンピュータ入力システムに関する研究、障がい者と健康者の共用品の開発
日坂 真樹	准教授	工学博士	光と超音波による生体計測と医療応用／生体内部の3次元可視化技術、生体組織深部の高分解分光計測、空間ソリトンを用いた大容量記録媒体の開発
藤川 智彦	准教授	工学博士	バイオメカニカルコントロール（生体機構制御）／ヒトの運動を筋骨格系の筋力（生体内力）により評価する研究、生体の機構的な特性をロボットなどを用いて評価する研究
橘 克典	講 師		メディカルサポートテクノロジー（臨床支援技術）／医療材料を用いた人工心肺装置操作シミュレータの開発、医療材料の機能的運用システムに関する研究

氏 名	職 階	学 位	主な研究テーマ・主な活動
理学療法学科 Department of Physical Therapy			
赤滝 久美	教 授	博士(学術)	筋機能の計測と評価法の開発／運動機能障害者の体力に関する研究
小田 邦彦	教 授		動作分析と筋の機能評価に関する研究
小柳 磨毅	教 授		スポーツリハビリテーション／運動機能障害の解析
吉田 正樹	教 授	工学博士	作業応用を目的とした人間型ロボットの全身運動計画／義足足部・足継手部の構造強度・機能試験機の開発
河野 奈美	准教授		地域リハビリテーション／高齢者の転倒予防に関する研究
越野 八重美	准教授	博士(保健学)	運動学習／動作解析
田中 則子	准教授		運動機能計測ならびに理学療法効果に関する研究
羽崎 完	准教授		在宅高齢者および身体障害者の健康維持に関する研究

氏 名	職 階	学 位	主な研究テーマ・主な活動
健康スポーツ科学科 Department of Health and Sports Science			
大石 利光	教 授		健康管理論／健康維持・増進（生涯スポーツ）の実践や器具開発
浄慶 一之	教 授	工学博士	医療機器の保守管理システムに関する研究／QOLを向上させるための医療機器の開発に関する研究
武田 ひとみ	教 授	学術博士	ストレスと健康／快・不快と中枢神経活動／アロマセラピーの生理的・心理的效果に関する研究
南部 雅幸	教 授	工学博士	在宅医療支援・遠隔医療・超音波生体測定
太田 暁美	准教授		運動生理学・健康科学
堀井 大輔	准教授		スポーツ教育学／応用健康科学
市谷 浩一郎	講 師		スポーツバイオメカニクス／パフォーマンス発揮における解析と評価に関する研究
中村 英夫	講 師	博士(人間・環境学)	生体信号処理・筋・神経系機能解析・自律神経活動計測

情報通信工学部

氏名	職階	学位	主な研究テーマ・主な活動
情報工学科 Department of Engineering Informatics			
猪原 正守	教授	工学博士	全社品質管理／多変量データ解析／品質情報解析に関する研究
梅尾 博司	教授	工学博士	複雑系/セルラーオートマトン/人工生命/並列アルゴリズムの設計と解析／超並列計算機アーキテクチャ／未来コンピュータ・システム
梅田 三千雄	教授	工学博士	文字・図形・音声情報の認識・理解／画像処理・理解／認知科学と神経回路網に関する研究
越後 富夫	教授	博士(工学)	映像メディア処理／映像検索／映像配信／医用画像処理応用に関する研究
小澤 一雅	教授	工学博士	パターン情報学／データベース工学／コンピュータ考古学に関する研究
来海 暁	教授	工学博士	センサ工学／集積回路工学
辻谷 将明	教授	工学博士	マシン・ラーニングとその応用
ヒルド・ミハエル	教授	工学博士	イメージング・システム／画像処理・コンピュータビジョン／画像時系列データの認識に関する研究
水本 雅晴	教授	工学博士	ファジィ制御とファジィ推論／ソフトコンピューティング／ソフトサイエンス
河合 利幸	准教授	工学博士	3次元コンピュータグラフィックスに関する研究／計算機構成法・並列処理システムに関する研究
小森 政嗣	准教授	人間科学博士	認知心理学／感性情報処理
竹内 和広	准教授	工学博士	自然言語処理／知的文書処理／ユーザインタフェースに関する研究
西 省吾	准教授	工学博士	色彩画像処理／計算機ホログラフィ
藤田 玄	准教授	情報科学博士	動画像符号化／システムVLSI設計に関する研究
阿部 昇	講師	工学博士	グラフ理論とその応用
上嶋 章宏	講師	情報学博士	計算機アルゴリズム

氏名	職階	学位	主な研究テーマ・主な活動
通信工学科 Department of Telecommunications and Computer Networks			
小南 昌信	教授	工学博士	無線通信ネットワークに関する研究／パルスレーダ用広帯域アンテナに関する研究
橋本 正弘	教授	工学博士	光ファイバ・光導波路の理論的および実験的研究／光波応用に関する研究
樋口 英世	教授	工学博士	通信用光デバイスの評価解析に関する研究／デジタル光信号の伝送品質に関する研究
前川 泰之	教授	工学博士	準ミリ波帯衛星回線品質に関する研究／同交差偏波識別劣化補償法に関する研究／VSAT局による衛星通信実験
村上 泰司	教授	工学博士	フォトリソグラフィネットワーク構成法および構成部品に関する研究／家庭内通信システムに関する研究
何 一偉	准教授	工学博士	レーダイメージングに関する研究／移動通信に関する研究／電磁波の数値解析に関する研究
柴垣 佳明	准教授	工学博士	VHF・UHF帯レーダを用いた対流圏大気運動の研究
土居 元紀	准教授	博士(工学)	動画像解析に関する研究／画像認識の応用に関する研究
村上 恭通	講師	工学博士	通信セキュリティに関する研究／公開鍵暗号

総合情報学部

氏名	職階	学位	主な研究テーマ・主な活動
デジタルアート・アニメーション学科 Department of Digital Art and Animation			
いしぜき ひでゆき	教授		コミック原作・ゲームシナリオ及びディレクション／デジタルコンテンツのプランニング／キャラクター中心のコンテンツ制作・プランニング
楓 大介	教授		写真表現
神崎 和男	教授		ジャパニーズ・イングリッシュの音声学的研究
小森 一平	教授		マーケティングマネジメント・キャリアコンサルティング
寺山 直哉	教授		CG映像デザイン・アニメーション
原 久子	教授		アートマネジメント
山路 敦司	教授		作曲／コンピュータ音楽／音楽情報デザイン
上田 和浩	准教授		パペット・CGアニメーション／クリエイティブデザイン
植野 雅之	准教授	工学博士	対話型学習環境／ヒューマンインタフェース
倉地 宏幸	准教授		グラフィックデザイン
金村 仁	講師		空間造形デザイン
ナガタ タケシ	講師		CG／映像デザイン

氏名	職階	学位	主な研究テーマ・主な活動
デジタルゲーム学科 Department of Digital Games			
魚井 宏高	教授	工学博士	ヒューマンインタフェース／ソフトウェア構成学／インターネットシステム
門林 理恵子	教授	博士(工学)	情報デザイン／エデュテインメント／デジタルヘリテージ
上善 恒雄	教授	工学博士	環境情報／空間データ処理／ユビキタス通信基盤
平井 史郎	教授	工学博士	素粒子論／宇宙論／物理シミュレーション
藤田 高弘	教授		プランニング&プロデュース
渡部 隆志	教授		ビジュアルコミュニケーションデザイン／デザイン教育／デジタルコンテンツとアート
佐藤 礼華	准教授		コンピュータグラフィックス／バーチャルリアリティ／異分野のゲーム応用
高見 友幸	准教授	工学博士	組み込みシステム設計／電離圏物理学／計測情報処理
中根 康之	准教授		ゲームエンタテインメント
廣瀬 俊彦	准教授		ビジュアルアート／映像デザイン／DTVにおける映像表現
横山 宏	准教授	博士(経営情報学)	教育工学／情報教育／情報倫理教育
沼田 哲史	講師	博士(情報科学)	オブジェクト指向設計／情報デザイン／プログラミング技法

氏名	職階	学位	主な研究テーマ・主な活動
メディアコンピュータシステム学科 Department of Computer Science			
北嶋 暁	教授	博士(工学)	VLSI工学／計算機設計工学／組込みシステム設計
鴻巣 敏之	教授	博士(工学)	符号理論／情報理論／情報数理論
登尾 啓史	教授	工学博士	移動ロボットのナビゲーション／ダイナミックアニメーション／ウェアラブルコンピュータ／ハプティック
福山 峻一	教授	工学博士	プロジェクトマネジメント／インターネット応用システム
升谷 保博	教授	博士(工学)	ロボティクス／メカトロニクス
渡邊 郁	教授	博士(工学)	グラフ理論／ネットワーク理論／アルゴリズム
大西 克彦	准教授	博士(情報科学)	ヒューマンインタフェース／コンピュータグラフィックス
小枝 正直	准教授	博士(工学)	ロボット工学／VR／インタフェース
南角 茂樹	准教授		組み込みシステム／組み込みリアルタイムOS
久松 潤之	准教授	博士(情報科学)	ネットワーク／高速データ通信／次世代インターネット

金融経済学部

氏名	職階	学位	主な研究テーマ・主な活動
アセット・マネジメント学科 Department of Assets Management			
浅倉 史興	教授	理学博士	非線形解析／自然現象と社会現象の数値モデリング
上垣 公明	教授	文学博士	異文化コミュニケーション／アメリカ文学
河上 芳明	教授		国際金融／証券ポートフォリオ運用
清水 和夫	教授		証券管理論／証券・信託関係法令／企業コンプライアンス
寺田 貢	教授		多資産(証券に不動産、保険を加えて)の最適化資産運用理論
山本 利明	教授		社会的責任投資／金融マーケット論
境 隆一	准教授		暗号理論および情報セキュリティに関する研究／通信路符号化に関する研究
松尾 邦子	准教授	Master of Science in Foreign Service	株式投資をめぐる企業価値／市場の分析／事業計画の作成／IR活動
池内 博一	講師		
掛谷 純子	講師		
中川 真由美	講師		
山野 加代枝	講師		

(3) 学生に関する情報

【入学に関する基本的な方針】

大阪電気通信大学は、学生が必要とするものは何か、ひいてはその学生が巣立った際に活躍するという観点から、社会が必要とするものは何かを常に見据え、時代の変化に対し、時には大胆な発想を用い、時には頑なに伝統を重んじながら、社会に貢献できる真のスペシャリスト育成を目指します。

大阪電気通信大学は、それら人材の輩出を実現するにあたり、意欲と情熱をもつ次の学生を求めます。

- (1) 得意な分野を活かし、社会への貢献をめざす人
- (2) 自らの目標に向かって努力を惜しまない人
- (3) 大阪電気通信大学を母校として愛し、仲間と共に励まし・共に学び合える人

【入学者受け入れ方針（アドミSSION・ポリシー）】

工学部

- ・工学技術を支え発展させ、広く社会及び産業界で活躍したいという意欲のある学生を求めます。
- ・大学での工学教育に取り組めるための基礎学力、特に基礎的数学力と科学に対する興味及びコミュニケーション能力が必要です。

医療福祉工学部

心臓と肺の機能を代行する人工心肺装置、開腹せずに腫瘍を取り除く内視鏡手術、病気にならないようにする健康増進・介護予防技術、衰えた身体運動機能や感覚機能をロボティクスにより再建・支援する福祉工学技術などの医療福祉分野では、テクノロジーを駆使することで夢と思われていた医療福祉技術が実現されています。この医療福祉の分野で求められる人材には、「病気を何とかして治したい」、「医療あるいは福祉の分野で人の役に立ちたい」、「不自由さを無くしたい」という意欲とそれを実現させるための専門知識が必要不可欠です。この医療福祉分野に対する意欲と熱意は、本人ある

いは近親者の医療体験、福祉体験、ボランティア体験が起点となっていることが多く、その後の勉学の原動力になっています。

医療福祉工学部では、次のような入学者を求めています。

1. 「病気を何とかして治したい」、「医療あるいは福祉の分野で人の役に立ちたい」、「不自由さを無くしたい」という意欲とそれを実現させるための熱意をもった臨床工学技士あるいはエンジニア、理学療法士、健康運動指導士を目指す人
2. 医療工学、医療情報学、健康福祉工学、理学療法、健康スポーツ科学の分野に興味を持ち、創造的に新しい医療福祉分野を開拓しようとするバイタリティーに満ちた人。
3. 基礎学力を有し、物事の本質を考えることができる人

情報通信工学部

- ・情報通信社会で活躍できる人材になるという強い意志と情熱をもち、勉学意欲のある者を求めます。
- ・情報通信工学を学ぶ上で必要となる基礎学力を十分有すると認められる者を選抜します。
- ・情報通信工学部では主として数学、理科、外国語、国語を重視します。
- ・情報通信の分野を学ぶことに強い意欲と情熱を有し、卒業後は情報通信関連分野で活躍することに使命感をもっている学生を求めています。
- ・技術的センスと論理的思考能力、コミュニケーション能力を有している学生を求めています。

総合情報学部

総合情報学部が求める学生は、上記教育理念を理解し、本学での学習を通して国際社会で通用するクリエイターやエンジニアになることのできる基礎力を持った方々です。次の項目に合致する人々に広く門戸を開いています。

1. 芸術表現力や科学技術力を身につけて創意工夫のできる人であること
2. 社会性を身につけたコミュニケーション能力のある人であること
3. 各学科が掲げる学習教育目標を達成するのに必要な意欲と適性がある人であること。

金融経済学部

経済・金融に興味を持ち、学習意欲・倫理観が高く、大学在学中に修得した知識・資格・スキルを卒業後に生かす意欲がある学生を求めています。

【学部・学科等の定員、在籍学生数の状況】（平成22年5月1日現在）

大阪電気通信大学

学部（研究科）	入学定員	入学者数	収容定員	1年次	2年次	3年次	4年次	合 計
工 学 研 究 科（修 士 課 程）	100	89	200	89	90			179
工 学 研 究 科（博 士 後 期 課 程）	16	1	48	1	1	0		2
医 療 福 祉 工 学 研 究 科（修 士 課 程）	10	19	20	19	16			35
医 療 福 祉 工 学 研 究 科（博 士 後 期 課 程）	5	7	15	7	6	1		14
総 合 情 報 学 研 究 科（修 士 課 程）	30	43	60	43	45			88
総 合 情 報 学 研 究 科（博 士 後 期 課 程）	5	0	15	0	1	1		2
大 学 院 計	166	159	358	159	159	2		320
工 学 部 （ 工 学 部 第 1 部 ）	400	507	1,700	566	467	437	410	1,880
工 学 部 第 2 部	—	—	—	0	0	4	2	6
医 療 福 祉 工 学 部	190	199	750	201	224	197	175	797
情 報 通 信 工 学 部	240	274	1,040	318	268	235	280	1,101
総 合 情 報 学 部	300	340	1,290	367	372	362	345	1,446
金 融 経 済 学 部	80	27	160	28	31	—	—	59
学 部 計	1,210	1,347	4,940	1,480	1,362	1,235	1,212	5,289
合 計	1,376	1,506	5,298	1,639	1,521	1,237	1,212	5,609

大阪電気通信大学高等学校

学 科	募集人数	入学者数	1 年次	2 年次	3 年次	合 計
普 通 科	160	151	152	130	130	412
電 子 工 業 科	160	205	208	185	183	576
合 計	320	356	360	315	313	988

【卒業後の進路 主な就職先（50音順）】（過去5年）

工学部

IHI、アイコム、旭化成ホームズ、天辻鋼球製作所、アマノ、アルバック、アルプス電気、イトーキ、京セラミタ、クラレ、栗原工業、栗本鐵工所、グローリー、グンゼ、ケイ・オプティコム、山九、三信電気、三洋電機、島精機製作所、スズキ、スタンレー電気、住友電設、住友金属工業、積水ハウス、セコム、総合警備保障、ソフトバンクグループ、タカタ、立花エレテック、大王製紙、ダイキン工業、ダイハツ工業、ダイヘン、大明、鶴見製作所、東海旅客鉄道、中山製鋼所、ニチコン、日東精工、日本コムシス、日本電設工業、日立造船、日野自動車、富士通、富士通サポートアンドサービス、富士通ゼネラル、船井電機、本田技研工業、丸一鋼管、三井造船、ミネベア、村田機械、村田製作所、森精機製作所、山崎製パン、山武、郵便事業、大阪府教育委員会、大阪府警察本部、防衛省

情報通信工学部

アイコム、NTT ネオメイト、関西電力、きんでん、ケイ・オプティコム、協和エクシオ、コナミデジタルエンタテインメント、住友電設、総合警備保障、東電通、西日本旅客鉄道、日本電産、富士通エフサス、ローム、大阪府教育委員会、大阪府警察本部、防衛省

医療福祉工学部

アストラゼネカ、エーザイ、オムロンヘルスケア、グリーンホスピタルサプライ、キッセイ薬品工業、シーメンス旭メディテック、スズケン、東和薬品、西日本旅客鉄道、日機装、ニプロファーマ、日本光電工業、フクダ電子、富士レビオ、警察庁、近畿管区警察局、財団法人大阪府警察協会、独立行政法人労働者健康福祉機構、防衛庁、学校法人東京女子医科大学、大阪大学医学部附属病院、京都大学医学部附属病院、近畿大学医学部附属病院、三重大学医学部附属病院

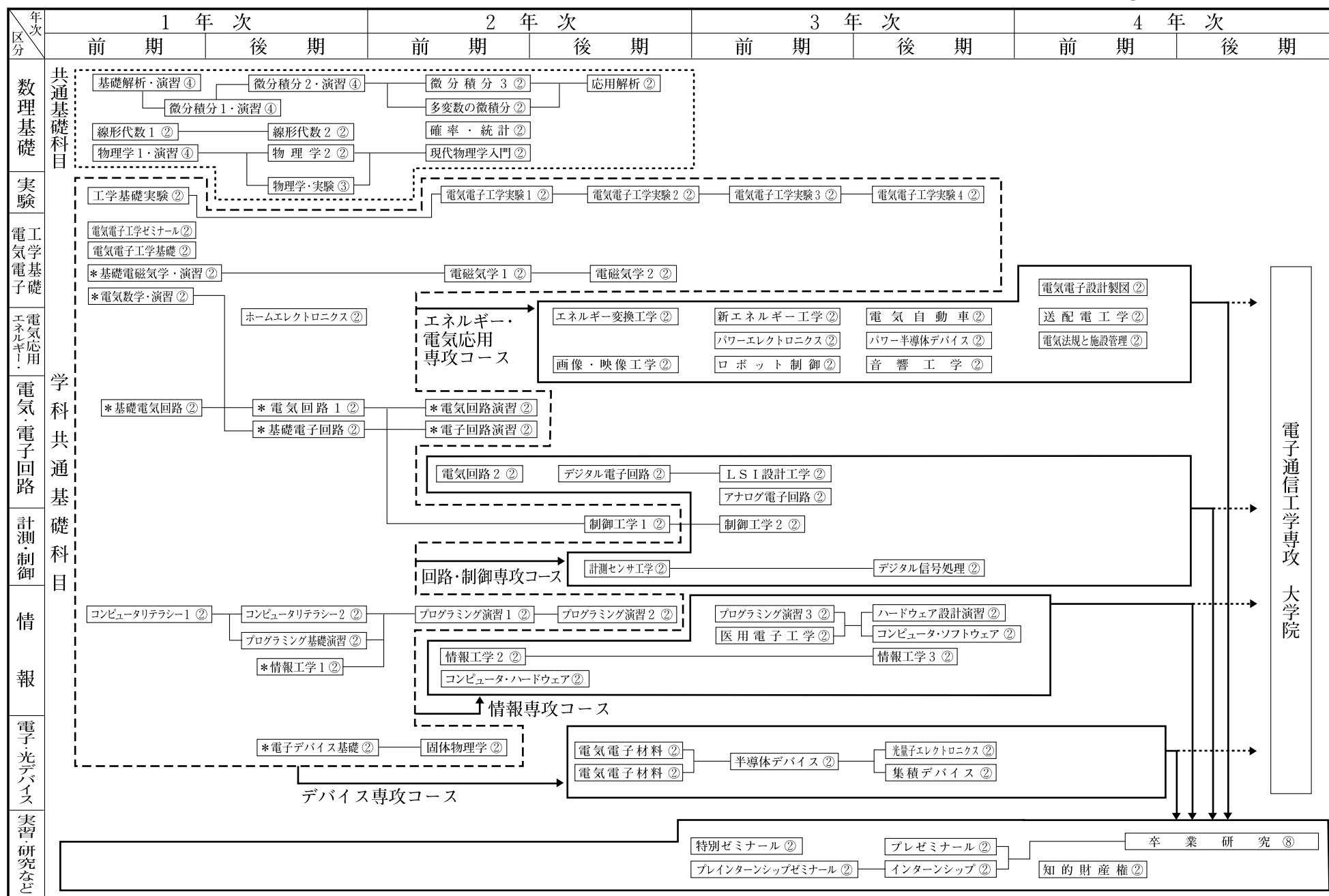
総合情報学部

EC ナビ、インテック、NEC システムテクノロジー、NEC 情報システムズ、NTT ソフトウェア、NTT データセキスイシステムズ、NTT ネオメイト、沖電気工業、大塚商会、カプコン、兼松エレクトロニクス、京セラコミュニケーションシステム、協和エクシオ、ケイ・オプティコム、コナミ、コナミデジタルエンタテインメント、三洋電機、資生堂、ジュピターテレコム、スクウェア・エニックス、住商情報システム、住友金属工業、セガ、総合警備保障、大和ハウス工業、ダイワボウ情報システム、TKC 富士通ネットワークソリューションズ、東海旅客鉄道、トーセ、ノーリツ鋼機、日亜化学工業パナソニック情報システム、富士通、フジテック、船井電機、三菱電機情報ネットワーク、矢崎総業、郵便事業

（４） 教育課程に関する情報

電気電子工学科 カリキュラム・フローチャート

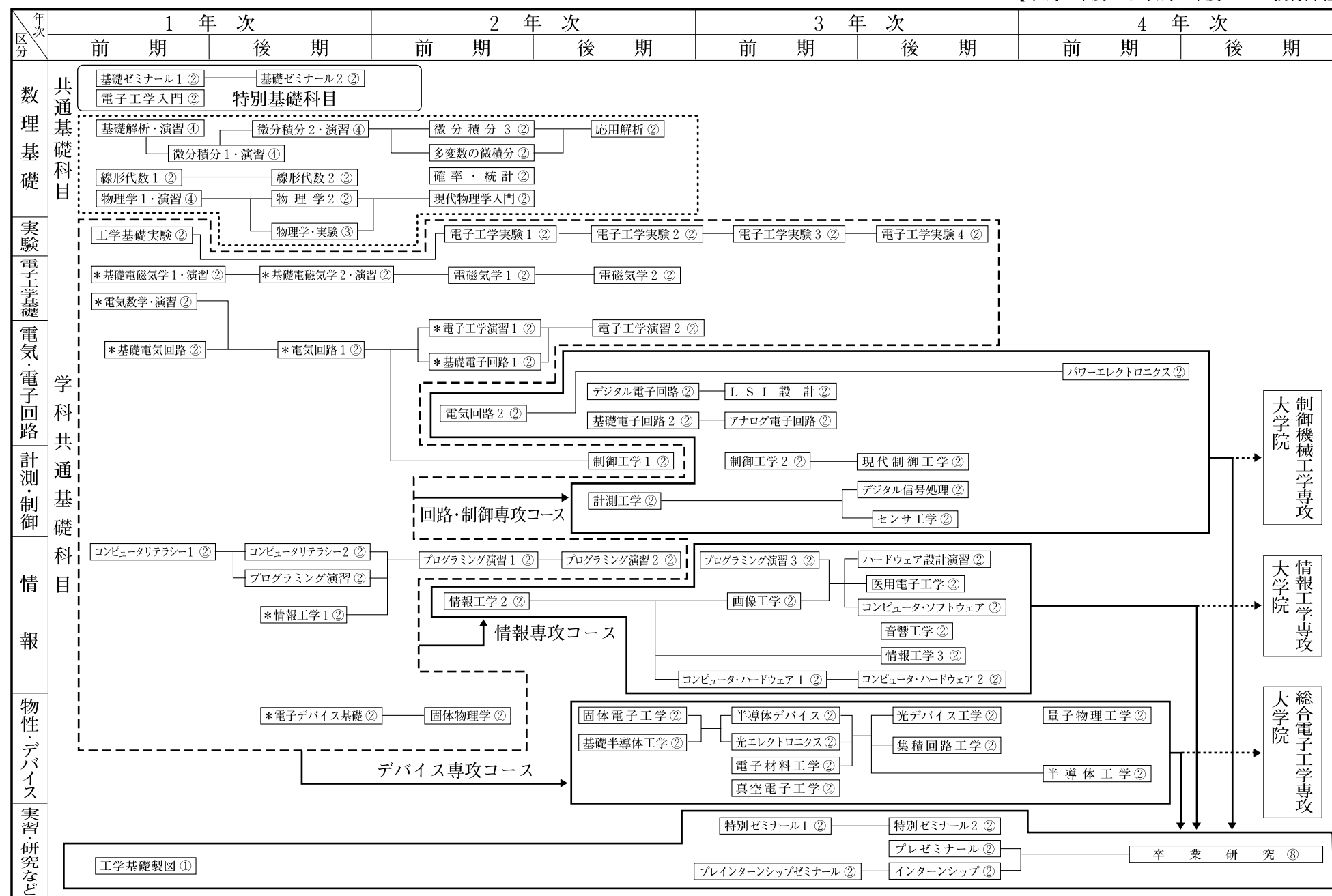
【平成21年度からの教育課程】



(注) *：基幹科目

電子工学科 カリキュラム・フローチャート

【平成18年度から平成20年度までの教育課程】



(注) *：基幹科目

応用化学科 カリキュラム・フローチャート

【平成21年度からの教育課程】

年次 区分	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
特別基礎	基礎ゼミナール 1 応用化学入門	基礎ゼミナール 2						
基礎	基礎解析演習 微分積分1・演習 物理学1・演習	微分積分1・演習 微分積分2・演習 物 理 学 2	現代物理学入門					
化学養	化 学 史	化 学 と 生 活	化 学 と 安 全	化 学 と 倫 理	化 学 と 産 業	化 学 と 英 語		
化学基礎	化 学 1 *	化 学 2 * 有機化学 1 * 無機化学 1 * 物理化学 1 *	有機化学 2 無機化学 2 物理化学 2 高分子化学 1 *	有機化学 3 固体化学 分子分光光学 高分子化学 2	有機化学 4 錯体化学 電気化学 高分子化学 3			
ナノテク・材料						セラミックス材料 高分子材料 エレクトロニクス材料 ナノ化学 超分子化学		
環境			地球科学 分析化学	環境化学 機器分析 1 *	機器分析 2	エネルギー化学		
生命科学			生 化 学 1 生 物 1	生 化 学 2	生体機能化学	食 品 化 学 バ イ オ 材 料		
シミュレーション化学	コンピュータリテラシー1	コンピュータリテラシー2 プログラミング基礎演習	化学プログラミング演習	量子化学* 化学コンピュータ演習	シミュレーション化学	シミュレーション化学演習		
実験	生活化学実験	物 理 学 実 験	化 学 実 験 1	化 学 実 験 2	応用化学実験 1 応用化学実験 2	応用化学実験 3 応用化学実験 4		

*：学科基幹科目

応用化学科 カリキュラム・フローチャート

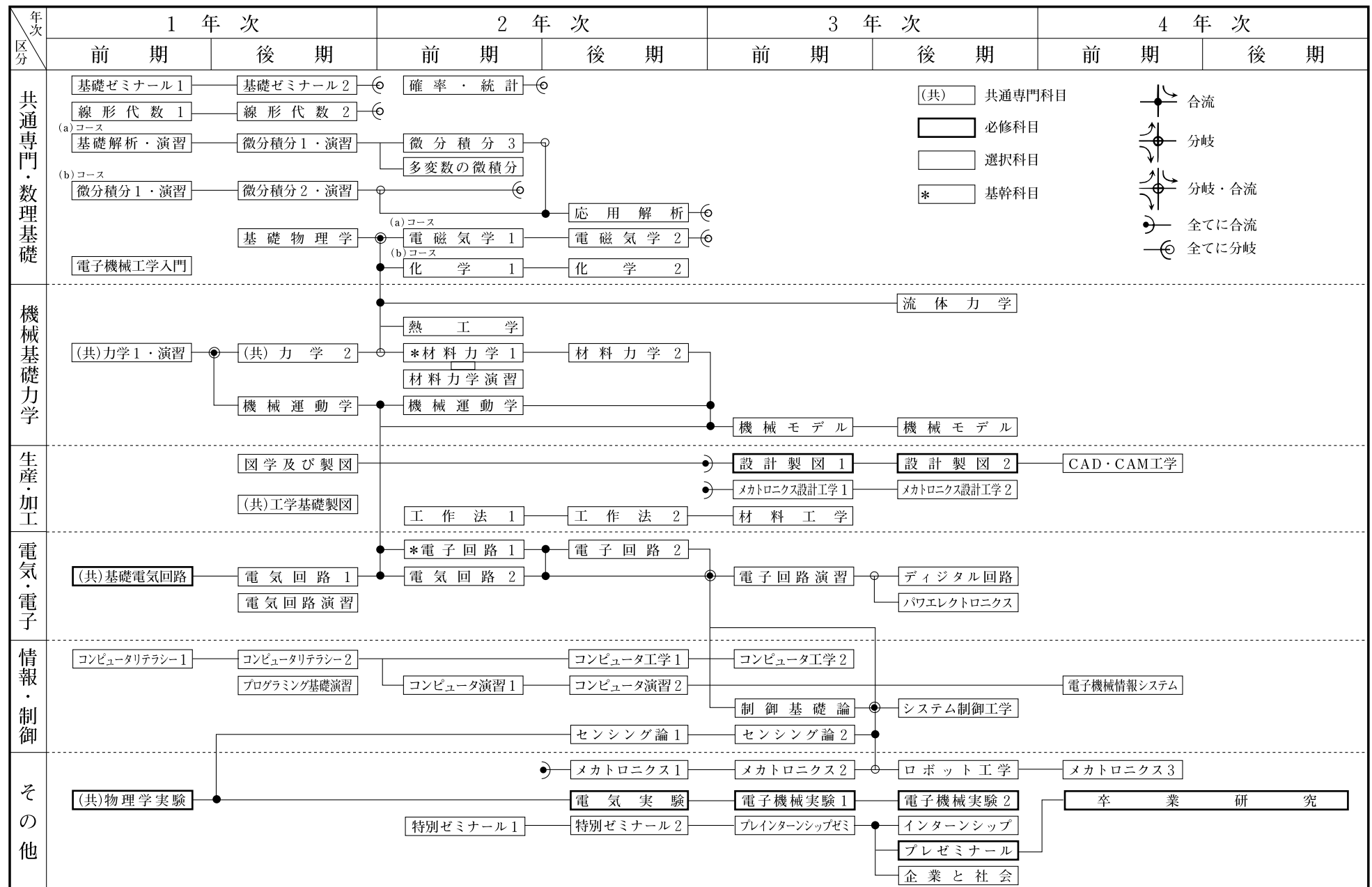
【平成18年度から平成20年度までの教育課程】

	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
特別基礎	基礎ゼミナール 1 応用化学入門	基礎ゼミナール 2						
基礎 (数学) (物理・化学)	基礎解析・演習 微積分学 1・演習 物理学 1・演習 化学 1** 線形代数 1	微積分学 1・演習 微積分学 2・演習 物理学 2 化学 2 線形代数 2	確率・統計 現代物理学入門					
情報	コンピュータリテラシー 1	コンピュータリテラシー 2 プログラミング基礎演習	コンピュータ演習 1	コンピュータ演習 2	シミュレーション化学 1**	シミュレーション化学 2	シミュレーションゼミナール	
エレクトロニクス材料	基礎電気回路		電磁気学 量子物理学	回路学 固体電子材料** 半導体材料	エレクトロニクス材料 1	エレクトロニクス材料 2	電子材料ゼミナール 物質科学ゼミナール	
材料化学	基礎化学 **	有機化学 1** 無機化学 1**	物理化学 1** 有機化学 2 高分子化学 1** 無機化学 2 分析化学 生化学 1**	物理化学 2 有機化学 3 高分子化学 2 量子化学 ** 固体化学 生化学 2 機器分析 1	電気化学 有機合成化学 高分子化学 3 セラミックス材料 バイオ材料 機器分析 2	エネルギー化学 有機材料 高分子材料 界面化学 環境化学	機能性材料ゼミナール 環境材料ゼミナール	
実験	化学基礎実験	物理学・実験	工学基礎実験	物性化学実験	応用化学実験 1 物理化学実験 1	応用化学実験 2 物理化学実験 2		
その他	基礎英文法セミナー	TOEIC 特別セミナー	特別ゼミナール 1	特別ゼミナール 2	ブレインターンシップゼミナール	インターンシップ プレゼミナール	卒業研究	

**：基幹科目

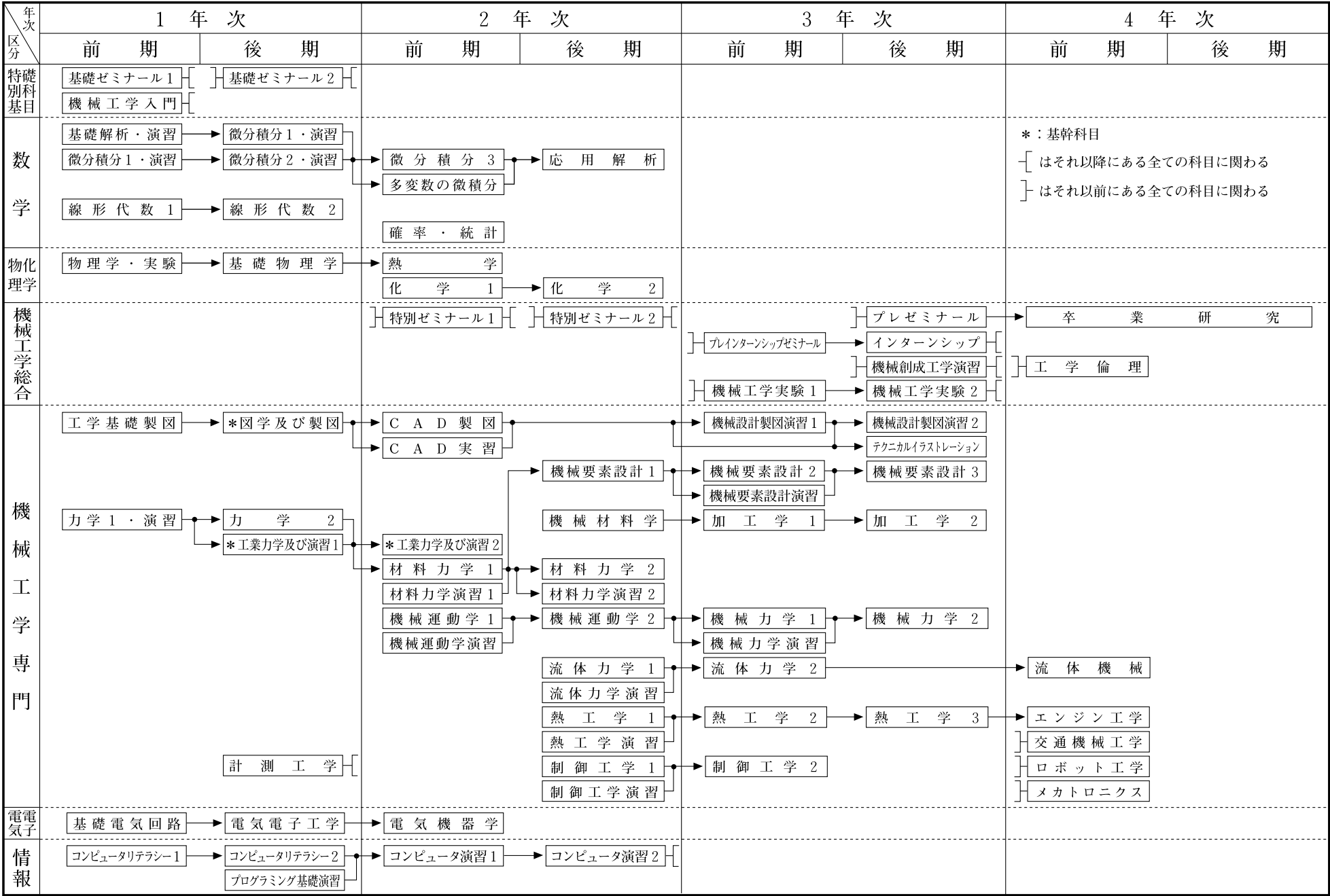
電子機械工学科 カリキュラム・フローチャート

【平成18年度からの教育課程】



機械工学科 カリキュラム・フローチャート

【平成18年度入学者用】



環境技術学科 カリキュラム・フローチャート

【平成18年度からの教育課程】

年次 区分	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
基礎専門	基礎ゼミナール1 ② 環境技術入門 ②	基礎ゼミナール2 ②						
数学・物理・化学情報工学入門	基礎解析・演習 ④* 微分積分1・演習 ④* 線形代数1 ② 力学1・演習 ④ コンピュータリテラシー1 ② 基礎電気回路 ②	微分積分1・演習 ④** 微分積分2・演習 ④** 線形代数2 ② 基礎物理学 ② 物理学・実験 ③ コンピュータリテラシー2 ② プログラミング基礎演習 ②	確率・統計 ② 化学 ② 工学基礎製図 ①	応用解析 ②				
環境技術基礎	*環境工学概論1 ②	*環境工学概論2 ② 工業力学 ②	流体工学1 ② 流体工学演習 ② 振動工学 ② 振動工学演習 ②	流体工学2 ② 熱工学 ② 熱工学演習 ② 化学工学通論 ② CAD ②	伝熱工学 ② 数値計算法 ②	材料力学 ② 材料力学演習 ② 環境材料学 ②		
環境計測技術			情報処理演習1 ② 電気電子工学1 ②	情報処理演習2 ② 電気電子工学2 ② 電気実験 ②	画像工学 ② 計測工学 ② 制御工学1 ②	パターン認識 ② 制御工学2 ②		
環境技術応用					環境技術実験1 ② 環境技術基礎演習1 ④ 空気調和・冷凍工学 ② 大気環境学 ② 水圏環境学 ② 住環境学 ②	環境技術実験2 ② 環境技術基礎演習2 ④ エネルギー変換工学 ② エネルギーシステム論 ② リサイクル工学 ② 非破壊検査法 ② 環境計測法 ② 騒音制御 ②		
その他			特別ゼミナール1 ②	特別ゼミナール2 ②	プレインターンシップゼミナール ② インターンシップ ② プレゼミナール ②	環境法規 ② 工学倫理 ②	卒業研究 ⑧	

◎ *：基幹科目

◎ 科目名の後に付いている囲い数字は単位数を表す

◎ 科目名の後に付いている「*」印および「**」印はそれぞれ並列開講科目を表す

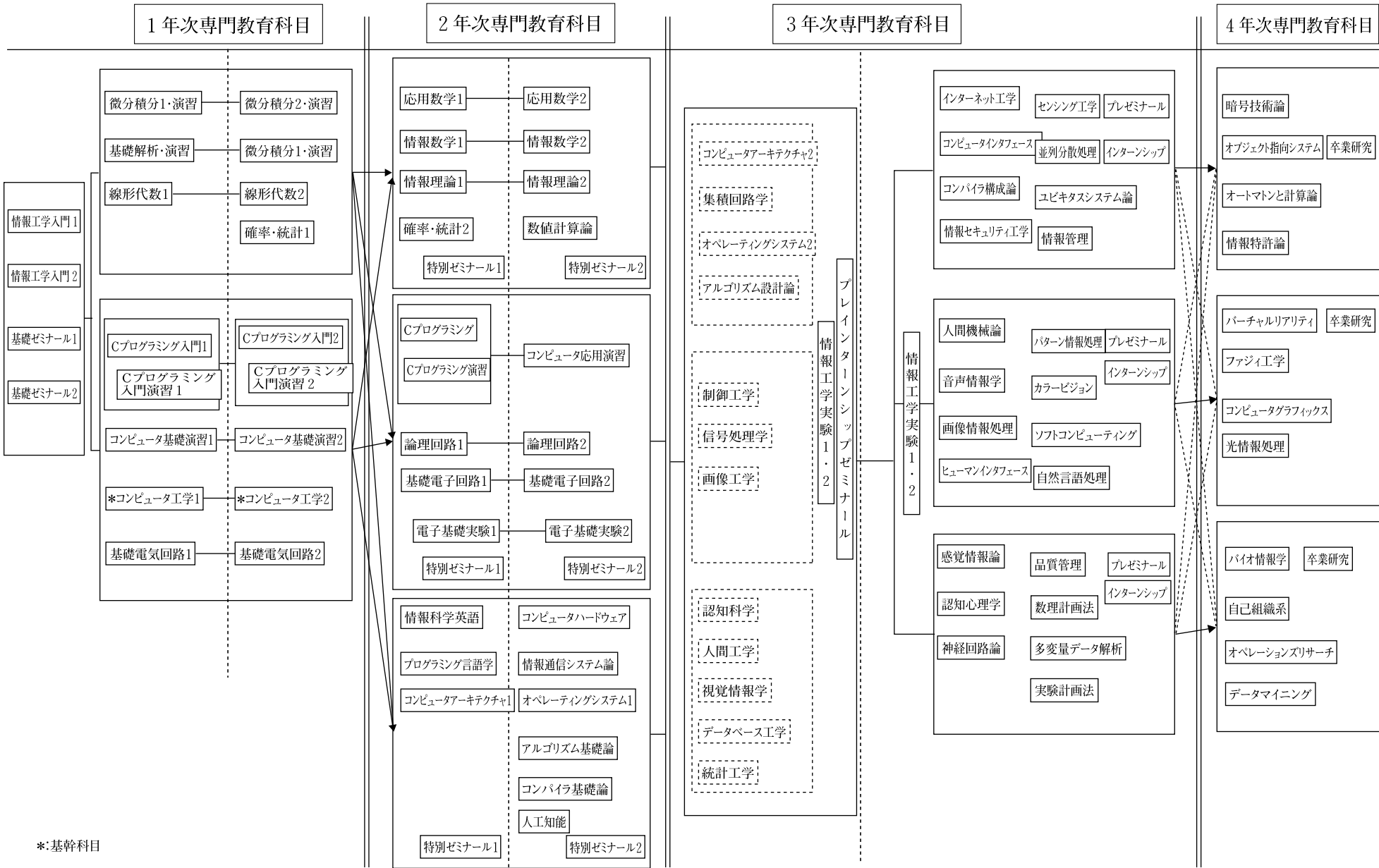
基礎理工学科 カリキュラム・フローチャート

年次 区分		1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
基礎専門科目	特別基礎科目	基礎ゼミナール 1 基礎理工学入門	基礎ゼミナール 2						
	数 学	基礎解析・演習 (2) *	微分積分 1・演習 (2) *	多変数の微積分 *					
		微分積分 1・演習 (2) *	微分積分 2・演習 (2) *	微 分 積 分 3 *					
		線 形 代 数 1	線 形 代 数 2						
	理 科	力学 1・演習 (2)	力 学 2 基 礎 物 理 学 ○物理学・実験 (2)	熱 学 現代物理学入門					
		化 学 1							
		生 物 学							
		コンピュータリテラシー 1	コンピュータリテラシー 2 プログラミング基礎演習						
	工学入門		基 礎 電 気 回 路						
	専 門 科 目	数理モデリング		確率モデル入門 複素数の数学	統計モデル入門 離散モデル入門 応用フーリエ解析 応 用 代 数 学 応 用 幾 何 学	数理モデリング ○数理モデリングゼミナール *	流 れ 解 析 数 理 解 析		
		計測・シミュレーション		電気回路・演習 (2)	電磁気学・演習 (2) 電 子 回 路	量子力学・演習 (2) ○科学計測ゼミナール * シミュレーション基礎	光 計 測 工 学 物 性 工 学 シミュレーション工学 計測・シミュレーション特別講義		
				○基礎サイエンス実験 1 (2)	○基礎サイエンス実験 2 (2)	計測・データ処理 1 ○応用サイエンス実験 (2)	計測・データ処理 2		
		理工学インテグレーション	数 学 と 工 学 ○工学基礎実験 (2)	物理学と先端技術 ○基礎理工学ゼミナール 1	○基礎理工学ゼミナール 2 コンピューター・プレゼンテーション演習		基礎理工学特別講義 1	基礎理工学特別講義 2	
		その他		特別ゼミナール 1	特別ゼミナール 2	○プレゼミナール	○ 卒 業 研 究		

○は必修科目、(2)は2コマ連続授業、*はどちらかを選択する科目

情報工学科 カリキュラム・フローチャート

【平成18年度からの教育課程】



通信工学科 カリキュラム・フローチャート

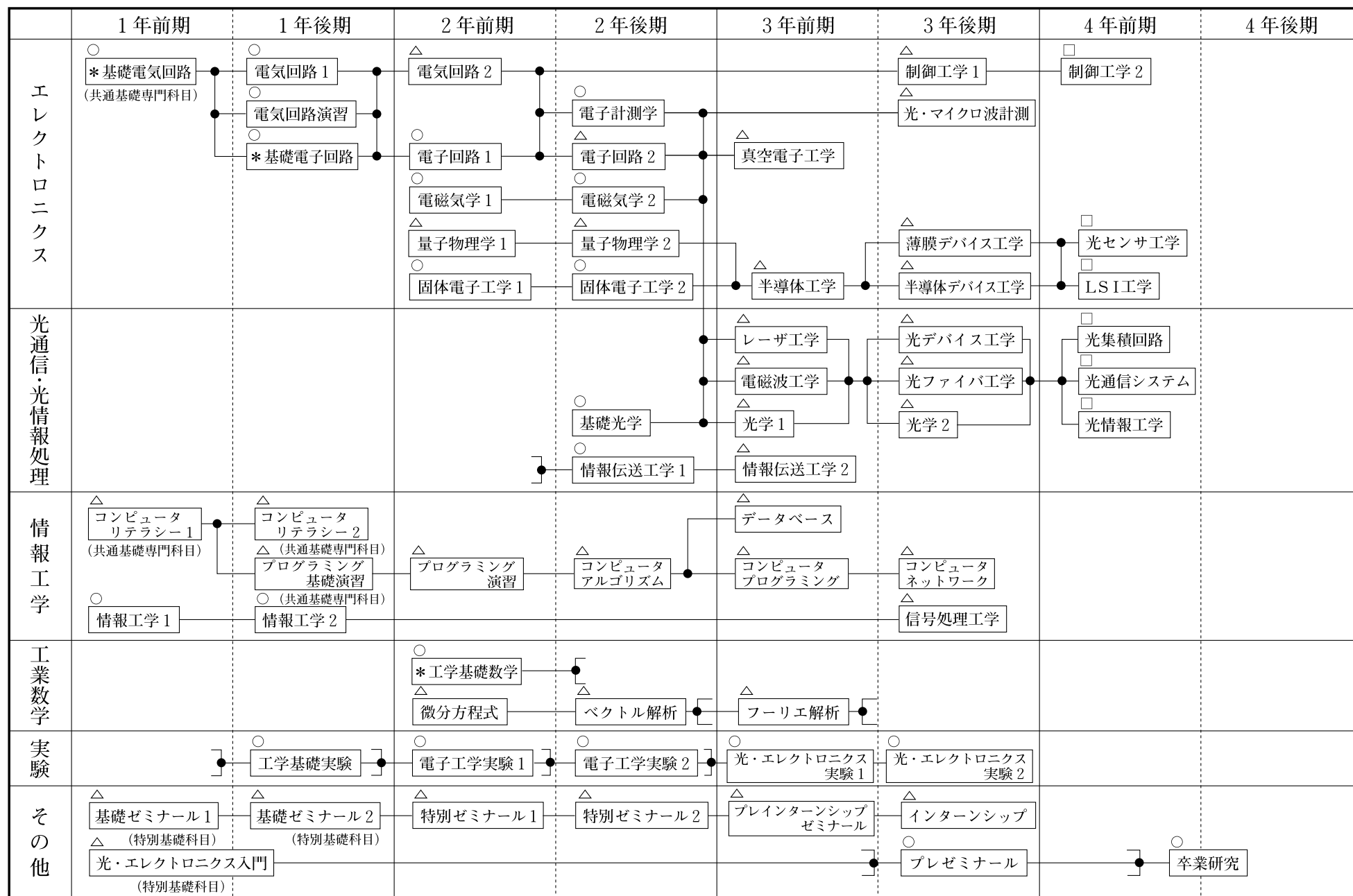
年次 区分	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
基礎 特別 科目	基礎ゼミナール 1 2	基礎ゼミナール 2 2						
	情報通信工学入門 2							
数 学	a 基礎解析・演習 4	a 微分積分 1・演習 4	多変数の微積分 2	応用解析 2				
	b 微分積分 1・演習 4	b 微分積分 2・演習 4	微分積分 3 2					
	線形代数 1 2	線形代数 2 2	確率・統計 2					
物 理	物理学 1・演習 4	物理学 2 2						
	物理学・実験 3							
通 信 方 式	基礎電気回路 2	* 電気回路 1 2	電気回路 2 2	計測工学 2		伝送線路工学 2		
			電子回路 1 2	電子回路 2 2	パルス回路 2			
		* 基礎電磁気学 2	電磁気学 1 2	電磁気学 2 2	電磁波工学 1 2	電磁波工学 2 2		
				固体電子工学 1 2	固体電子工学 1 2	LSI工学 2		
情 報 通 信			情報通信理論 1 2	情報通信理論 2 2	情報伝送工学 1 2	情報伝送工学 2 2		
					ネットワーク工学 2	情報交換工学 2		
					光通信工学 2	光エレクトロニクス 2		
						移動通信工学 2	電波法規 2	
情 報 工 学	コンピュータリテラシー 1 2	コンピュータリテラシー 2 2	基礎計算機工学 2	計算機工学 1 2	計算機工学 2 2			
				ソフトウェア工学 2	マルチメディア工学 2	情報セキュリティ 2		
		プログラミング基礎演習 2	コンピュータ演習 1 2	コンピュータ演習 2 2	コンピュータ応用演習 1 2	コンピュータ応用演習 2 2		
実 験		工学基礎実験 2	情報通信工学実験 1 2	情報通信工学実験 1 2	情報通信工学応用実験 1 2	情報通信工学応用実験 1 2		
そ の 他			特別ゼミナール 1 2	特別ゼミナール 2 2	プレインターンシップゼミナール 2	インターンシップ 2		
						プレゼミナール 2	卒業研究 8	

(注) 科目名の後に付いている数字は単位数を示す。

□ は必修科目、□ は H 群選択必修科目、□ は S 群選択必修科目を示す。

*：基幹科目

光・エレクトロニクス学科 カリキュラム・フローチャート



(注) *：基幹科目

臨床工学コース カリキュラム・フローチャート

L
2008～
【平成20年度からの教育課程】

年次 区分	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
1. 医 学	解 剖 学 生 理 学	基 礎 医 学・実 習	生 化 学 臨 床 生 理 学 免 疫 学 臨 床 医 学 総 論 1	医学概論と臨床医工学 病 理 学 薬 理 学 臨 床 医 学 総 論 2	看護学と介護予防 臨 床 医 学 総 論 3	臨 床 医 学 総 論 4	医 学 英 語	
2. 電気電子工学	エレクトロニクス入門 電 磁 気 学	電 気 回 路 学 1	電 気 回 路 学 2 電 気 工 学 ・ 実 験 電 子 回 路 学 シ ス テ ム 工 学	電 子 工 学 ・ 実 験		制 御 機 器 工 学	ロ ボ テ ィ ク ス	
3. 機械工学		機 械 工 学 概 論	材 料 力 学	流 体 力 学 機 械 工 学 演 習				
4. 情報工学	マイコンロボット製作実習	情報工学基礎論 1	情報工学基礎論 2 デ ィ ジ タ ル 回 路				医 療 統 計 学 演 習	
5. 生体医工学			計 測 工 学 生 体 物 性	バイオマテリアル	医 用 セ ン サ ー			
6. 医療情報システム				医療と情報ネットワーク 医 療 情 報 学 病 院 診 療 情 報 学 情 報 セ キ ュ リ テ ィ				
7. 医用機器学			医 用 機 器 学 1	医 用 機 器 学 2 生 体 計 測 学	医用画像診断装置学 生体計測と応用医学実習	医 用 治 療 機 器 学	医用治療機器学・実習	
8. 生体機能代行技術学					生体機能代行装置学 1 生体機能代行装置学 2	生体機能代行装置学・実習 1 生体機能代行装置学 3	生体機能代行装置学・実習 2	
9. 総合医療安全管理学					医用機器安全管理学	医用機器安全管理学・実習		
10. キャリア養成・演習			生体医工学基礎演習		情報技術特別演習 医療情報学特別演習 電 気 電 子 回 路 演 習		生体医工学応用演習	医療工学特別演習
11. 卒業研究・学外実習						プ レ ゼ ミ	学 外 実 習 卒 業 研 究 臨 床 実 習	卒 業 研 究

バイオメカニクス・福祉工学コース カリキュラム・フローチャート

L
2008～
【平成20年度からの教育課程】

年次 区分	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
1. 医 学	解 剖 学 生 理 学	基 礎 医 学・実 習		医 学 概 論 と 臨 床 医 工 学 病 理 学	看 護 学 と 看 護 予 防		医 学 英 語	
2. 電気電子工学	エレクトロニクス入門 電 磁 気 学	電 気 回 路 学 1	電 気 回 路 学 2 電 気 工 学・実 験 電 子 回 路 学 シ ス テ ム 工 学	電 子 工 学・実 験		制 御 機 器 工 学	ロ ボ テ ィ ク ス	
3. 機械工学	メカトロニクス	機 械 工 学 概 論	材 料 力 学	流 体 力 学 機 械 工 学 演 習				
4. 情報工学	マイコンロボット製作実習	情 報 工 学 基 礎 論 1	情 報 工 学 基 礎 論 2 デ ィ ジ タ ル 回 路 プ ロ グ ラ ム ィ ン グ 応 用 演 習 1 組 み 込 み ソ フ ト ウ ェ ア 演 習	マイコン制御プログラミング演習 医療と情報ネットワーク 情 報 セ キ ュ リ テ ィ プ ロ グ ラ ム ィ ン グ 応 用 演 習 2	デ ー タ ベ ー ス 論	ヒューマンインターフェース webデザイン演習	医 療 統 計 学 演 習	
5. 生体医工学			計 測 工 学	生 体 計 測 学	医 用 セ ン サ ー			
6. 支援工学		運 動 計 測 学	ク リ ニ カ ル バ イ オ メ カ ニ ク ス	リハビリテーション工学	ヒューマノイド工学	ヒューマンインターフェース		
7. 健康福祉 機器学				生 体 計 測 学	身 体 運 動 機 能 再 建 工 学 生 体 計 測 と 応 用 医 学 演 習 ヒューマノイド工学実習1	ヒューマノイド工学実習2		
8. 福祉環境学	人 間 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論	栄 養 学 入 門	バ リ ア フ リ ー 設 計 論			障 害 者 心 理 学 臨 床 心 理 学		
9. 総合医療安全 管理学					医 用 機 器 安 全 管 理 学	医 用 機 器 安 全 管 理 学 実 習		
10. キャリア養成・ 演習			生 体 医 工 学 基 礎 演 習		情 報 技 術 特 別 演 習 医 療 情 報 学 特 別 演 習 電 気 電 子 回 路 演 習	福 祉 住 環 境 特 別 演 習	生 体 医 工 学 応 用 演 習	
11. 卒業研究・ 学外実習						プ レ ゼ ミ	卒 業 研 究 学 外 実 習	卒 業 研 究

医療機器・生命情報学コース カリキュラム・フローチャート

L
2008～
【平成20年度からの教育課程】

年次 区分	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
1. 医 学	解 剖 学 生 理 学	基礎医学・実習	生 化 学 臨 床 生 理 学 免 疫 学 臨床医学総論 1	医学概論と医療工学 薬 理 学 病 理 学 臨床医学総論 2	看護学と介護予防 臨床医学総論 3	臨床医学総論 4	医 学 英 語	
2. 電気電子工学	エレクトロニクス入門 電 磁 気 学	電 気 回 路 学 1	電 気 回 路 学 2 電 気 工 学 ・ 実 験 電 子 回 路 学 シ ス テ ム 工 学	電 子 工 学 ・ 実 験		制 御 機 器 工 学	ロ ボ テ ィ ク ス	
3. 機械工学		機 械 工 学 概 論	材 料 力 学	流 体 力 学 機 械 工 学 演 習				
4. 情報工学	マイコンロボット製作実習	情報工学基礎論 1	情報工学基礎論 2 プログラミング応用演習 1 デ ィ ジ タ ル 回 路	プログラミング応用演習 2 マイコン制御プログラミング演習	デ ー タ ベ ー ス 論 ヒューマンインターフェース	Webデザイン演習 組み込みソフトウェア演習	医療統計学演習	
5. 生体医工学			計 測 工 学 生 体 物 性	バイオマテリアル	医 用 セ ン サ ー			
6. 医療情報システム				医療と情報ネットワーク 医 療 情 報 学 病 院 診 療 情 報 学 医療情報セキュリティ論 臨 床 検 査 学	医療情報システム演習 医療情報システム論 医療マネジメント	生体情報・画像処理実習		
7. 医用機器学				生 体 計 測 学	生体計測と応用医学実習 医用画像診断装置学			
8. 総合医療安全管理学					医用機器安全管理学			
9. キャリア養成・演習			生体医工学基礎演習		情報技術特別演習 医療情報学特別演習 電気電子回路演習		生体医工学応用演習	
10. 卒業研究・学外実習						プ レ ゼ ミ	学 外 実 習 卒 業 研 究	卒 業 研 究

健康福祉工学コース カリキュラム・フローチャート

L
2005～2007
【平成17年度から平成19年度までの教育課程】

年次 区分	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
1. 医 学	医療工学と医学概論 解剖学 生理学	基礎医学実習 機能解剖学 看護学入門	運動生理学 病理学	リハビリテーション医学		医学英語 精神医学		
2. 健康医学	健康管理概論	エアロビック運動の科学	スポーツと栄養 健康と運動プログラム 発育・発達と老化 体力の科学・実習 運動指導学実習1	運動指導学実習2	運動障害と予防 運動指導の心理学的基礎	スポーツ医学		
3. 電気電子工学	エレクトロニクス入門	電気回路学 電磁気学	電気回路演習 電気工学実験 電子回路学 制御工学	電気機器学 電子工学実験 システム工学				
4. 機械工学	機械工学概論		材料力学 メカトロニクス	流体力学 機械工学演習				
5. 情報工学	マイコンロボット製作実習	コンピュータ工学 ディジタル回路	情報基礎論 システム・情報処理演習	マイコン制御プログラミング演習 医療と情報ネットワーク	ヒューマンインターフェース			
6. 医用生体工学			計測工学	生体計測学	医用センサー			
7. 支援工学		運動計測学	リハビリテーション工学	バイオメカニクス 身体障害論 リハビリゲーム論	リハビリテーション機器 身体運動論 ヒューマンインターフェース			
8. 健康福祉 機器学					義肢装具学 デザイン論 健康福祉機器製作実習1 健康福祉機器製作実習2	健康福祉ロボット製作実習1 健康福祉ロボット製作実習2		
9. 福祉環境学	人間コミュニケーション論		バリアフリー設計論		福祉住環境論	生活環境論 障害者心理学 高齢者心理学		社会保障論
10. 総合医療安全管理学				医用機器安全管理学				
11. キャリア養成・演習			医用生体工学基礎演習	情報技術特別演習	医療情報学特別演習	電気電子工学演習	医用生体工学応用演習	医療工学特別演習
12. 卒業研究・学外実習					学外実習	プレゼミ	卒業研究	卒業研究 臨床実習

医療工学コース カリキュラム・フローチャート

2005～2007

【平成17年度から平成19年度までの教育課程】

年次 区分	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
1. 医 学	医療工学と医学概論 解剖学 生理学	基礎医学実習 看護学入門	運動生理学 臨床生理学 病理学	生 化 学		薬 理 学 医 学 英 語		
2. 臨床医学			臨床医学総論 1	臨床医学総論 2	臨床医学総論 3	臨床医学総論 4 精 神 医 学		
3. 生命情報学	分 子 生 物 学		免 疫 学					
4. 電気電子工学	エレクトロニクス入門	電 気 回 路 学 電 磁 気 学	電 気 回 路 演 習 電 気 工 学 実 験 電 子 回 路 学 制 御 工 学	電 気 機 器 学 電 子 工 学 実 験 シ ス テ ム 工 学				
5. 機械工学	機 械 工 学 概 論		材 料 力 学	流 体 力 学 機 械 工 学 演 習				
6. 情報工学	マイコンロボット製作実習	コンピュータ工学 ディジタル回路	情 報 基 礎 論 システム・情報処理演習					
7. 医用生体工学			計 測 工 学 生 体 物 性	バイオマテリアル	医 用 セ ン サ ー			
8. 医療情報システム		医療と情報ネットワーク		医 療 情 報 学 概 論 診 療 情 報 学 概 論				
9. 医用機器学			医 用 機 器 学 1	医 用 機 器 学 2 生 体 計 測 学	生体計測学実習 医用治療機器学	医 用 画 像 工 学 医用治療機器学実習		
10. 生体機能代行技術学					生体機能代行装置学 1 生体機能代行装置学 2 生体機能代行装置学 3	生体機能代行装置学実習 1	生体機能代行装置学実習 2	
11. 総合医療安全管理学				医用機器安全管理学	医用機器安全管理学実習			
12. キャリア養成・演習			医用生体工学基礎演習	情報技術特別演習	医療情報学特別演習	電気電子工学演習	医用生体工学応用演習	医療工学特別演習
13. 卒業研究・学外実習					学 外 実 習	プ レ ゼ ミ	卒 業 研 究	卒 業 研 究 臨 床 実 習

生命・医療情報学コース カリキュラム・フローチャート

2005～2007

【平成17年度から平成19年度までの教育課程】

年次 区分	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
1. 医 学	医療工学と医学概論 解剖学 生理学	基礎医学実習 看護学入門	運動生理学 臨床生理学 病理学	生 化 学		薬 理 学 医 学 英 語		
2. 臨床医学			臨床医学総論 1	臨床医学総論 2	臨床医学総論 3	臨床医学総論 4		
3. 電気電子工学	エレクトロニクス入門	電 気 回 路 学 電 磁 気 学	電 気 回 路 演 習 電 気 工 学 実 験 電 子 回 路 学 制 御 工 学	電 気 機 器 学 電 子 工 学 実 験 シ ス テ ム 工 学				
4. 情報工学	マイコンロボット製作実習	コンピュータ工学 ディジタル回路	情 報 基 礎 論 プログラミング応用演習1 システム・情報処理演習	情報コミュニケーション論 プログラミング応用演習2 マイコン制御プログラミング演習	オペレーティングシステム Webデザイン演習 データベース論 ヒューマンインターフェース	マルチメディア工学 アルゴリズム論		
5. 医用生体工学			計 測 工 学 生 体 物 性	バイオマテリアル	医 用 セ ン サ ー			
6. 生命情報学	分 子 生 物 学		免 疫 学		バイオインフォマティクス	遺 伝 子 工 学 生 命 倫 理 学		
7. 医療情報システム		医療と情報ネットワーク		医 療 情 報 学 概 論 診 療 情 報 学 概 論	生体情報・医用画像処理演習 医療情報システム論 臨床検査学	医療情報ネットワークプログラミング演習 医療情報セキュリティ論 医療マネージメント		
8. 医用機器学				生 体 計 測 学	生体計測学演習	医 用 画 像 工 学		
9. 総合医療安全管理学				医用機器安全管理学				
10. キャリア養成・演習			医用生体工学基礎演習	情報技術特別演習	医療情報学特別演習	電気電子工学演習	医用生体工学応用演習	
11. 卒業研究・学外実習					学 外 実 習	プ レ ゼ ミ	卒 業 研 究	卒 業 研 究

理学療法学科 カリキュラム・フローチャート

Y
2010～
【平成22年度からの教育課程】

年次 区分	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
基礎医学	○ 生 理 学 1 ○ 解 剖 学 ○機能解剖学演習	生 理 学 2 ○ 基礎医学実習 ○ 運動学演習 1	○運動学演習 2					
臨床医学			○ 臨 床 医 学 1 ○ 臨 床 医 学 2	○ 臨 床 医 学 3 ○ 臨 床 医 学 4 ○ 臨 床 心 理 学				
基礎理学療法学	○ 理学療法概論	○ 障 害 概 論	○義肢装具学演習 福 祉 住 環 境 デ ザ イ ン 論	日常生活活動学 ○ 理 学 療 法 評 価 演 習 1 ○物理療法学演習	○ 理 学 療 法 評 価 演 習 2			
理学療法治療学				○ 運 動 療 法 学	○運動系理学療法学演習 1 ○神経系理学療法学	○運動系理学療法学演習 2 ○呼 吸 循 環 系 理 学 療 法 学 小児系理学療法学 ス ポ ー ツ 系 理 学 療 法 学 老年系理学療法学		
応用理学療法学					臨床理学療法学演習 1 ○総合理学療法学特論 1 総合技術特別実習 1	○臨床理学療法学演習 2 ○総合理学療法学特論 2 総合技術特別実習 2	○臨床理学療法学演習 3 ○総合理学療法学特論 3 総合技術特別実習 3	○総合理学療法学特論 4 総合技術特別実習 4
卒業研究・学外実習			○ 臨 床 実 習 1			○ 臨 床 実 習 2 ○ 臨 床 実 習 3	○卒 業 研 究	○ 臨 床 実 習 4 ○ 臨 床 実 習 5

ただし○は必修科目

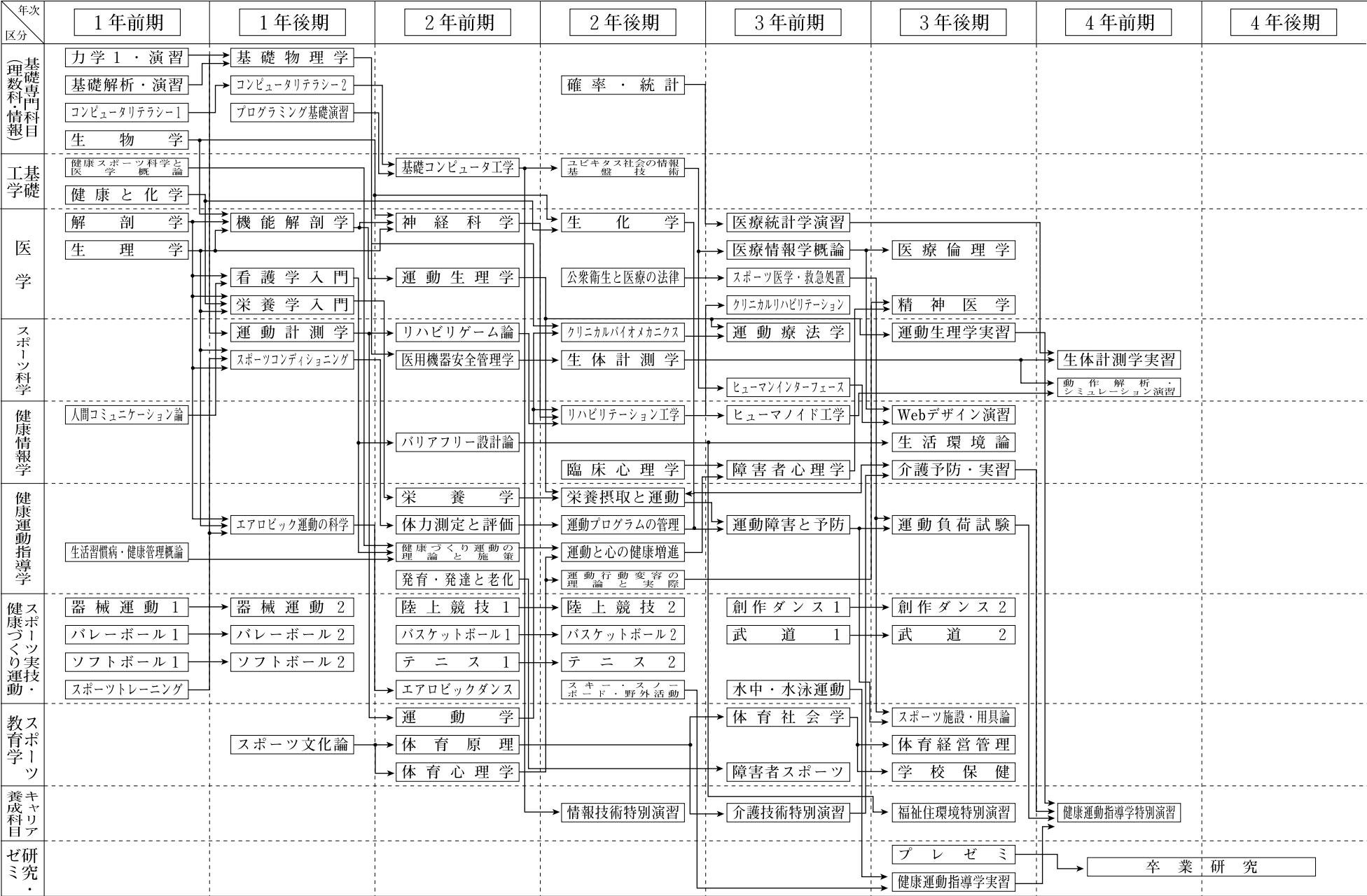
理学療法学科 カリキュラム・フローチャート

Y
2006～2009
【平成18年度から平成21年度までの教育課程】

年次 区分	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
基礎医学	○解剖学	基礎医学実習					医療関係法規	
	○人間発達学							
臨床医学			病理学	薬理学		○精神医学		
						○リハビリテーション医学		
			臨床医学総論 1	臨床医学総論 2	臨床医学総論 3	臨床医学総論 4		
支援工学	○マイコンロボット 製作実習	デジタル回路		医用機器安全管理学	○リハビリテーション工学		デザイン論	バイオメカニクス
								リハビリテーション機器
								バリアフリー設計論
								リハビリゲーム論
福祉環境学	人間コミュニケーション論					生命倫理学		社会保障論
						障害者心理学		○生活環境論
						○高齢者心理学		
						○日常生活活動学		
						医療マネジメント		
評価計測学		○機能解剖学	身体運動論	○身体障害論				
		○運動生理学	○運動学 2	○生体評価法				
		○運動学 1	○運動計測学実習	○動作解析学				
		生体計測学		生体評価法実習				
理学療法治療学	○理学療法学概論			○運動療法学 1	運動療法学 2		物理療法学	
					運動療法学実習		物理療法学実習	
				○義肢装具学	○義肢装具学実習			
				○理学療法技術論 1	理学療法技術論 2	○理学療法技術論 3		
					スポーツ リハビリテーション	理学療法技術論 4		
						理学療法技術実習 1	理学療法技術実習 2	
キャリア 養成科目						福祉住環境特別演習		○理学療法特別実習
卒業研究・ 学外実習							○臨床実習 1	○臨床実習 2
							○卒業研究	

ただし○は必修科目

健康スポーツ科学科専門科目履修フローチャート



1年次			
区 分	授 業 科 目	必 選	
学 科 基 礎	ゼミナール入門	○	
	キャリアデザイン概論	○	
情 報 と 社 会	コンピュータリテラシー演習	□a	
	メディアリテラシー演習	□a	
作 品 と 社 会	インターネット演習 *	○	
	メディア論	□b	
自 己 の 再 発 見	アートマネジメント概論 1	□b	
	アートマネジメント概論 2	□b	
身 体 感 覚 と イ メ ー ジ	視覚表現論 1 *	○	
	視覚表現論 2 *	○	
ア ー ト 概 論	造形基礎演習1	□c	
	造形基礎演習2	□c	
デ ジ タ ル ア ー ト	映像概論	△	
	デザイン概論	△	
デ ジ タ ル ア ニ メ ー シ ョ ン	写真概論	△	
	音楽概論	△	
デ ジ タ ル ア ー ト	アニメーション概論	△	
	映像理論	□d	
デ ジ タ ル ア ー ト	映像設計	□d	
	デザイン演習 1	□d	
デ ジ タ ル ア ニ メ ー シ ョ ン	デジタル画像表現演習 1	□d	
	音楽情報デザイン	□d	
デ ジ タ ル ア ニ メ ー シ ョ ン	アニメーション基礎1	△	
	アニメーション基礎2	△	
デ ジ タ ル ア ニ メ ー シ ョ ン	3DCGアニメーション基礎演習1	△	
	3DCGアニメーション基礎演習2	△	

1年次			
区 分	授 業 科 目	必 選	
特 別 基 礎 科 目	基礎ゼミナール1	○	
	基礎ゼミナール2	○	
情 報 と 社 会	デジタルアート・アニメーション入門	△	
	コンピュータリテラシー演習	□g	
作 品 と 社 会	メディアリテラシー演習	□g	
	インターネット演習 *	○	
自 己 の 再 発 見	メディア論	□h	
	アートマネジメント概論 1	□h	
身 体 感 覚 と イ メ ー ジ	アートマネジメント概論 2	□h	
	視覚表現論 1 *	○	
ア ー ト 概 論	視覚表現論 2 *	○	
	造形基礎演習1	□i	
デ ジ タ ル ア ー ト	造形基礎演習2	□i	
	映像概論	△	
デ ジ タ ル ア ニ メ ー シ ョ ン	デザイン概論	△	
	写真概論	△	
デ ジ タ ル ア ー ト	音楽概論	△	
	アニメーション概論	○	
デ ジ タ ル ア ー ト	映像理論	□j	
	映像設計	□j	
デ ジ タ ル ア ニ メ ー シ ョ ン	デザイン演習 1	□j	
	デジタル画像表現演習 1	□j	
デ ジ タ ル ア ニ メ ー シ ョ ン	音楽情報デザイン	□j	
	アニメーション基礎1	□j	
デ ジ タ ル ア ニ メ ー シ ョ ン	アニメーション基礎2	□j	
	3DCGアニメーション基礎演習1	□j	
デ ジ タ ル ア ニ メ ー シ ョ ン	3DCGアニメーション基礎演習2	□j	

1年次			
区 分	授 業 科 目	必 選	
特 別 基 礎 科 目	基礎ゼミナール1	○	
	基礎ゼミナール2	○	
情 報 と 社 会	デジタルアート・アニメーション入門	△	
	コンピュータリテラシー演習	□m	
作 品 と 社 会	メディアリテラシー演習	□m	
	インターネット演習 *	○	
自 己 の 再 発 見	メディア論	□n	
	アートマネジメント概論 1	□n	
身 体 感 覚 と イ メ ー ジ	アートマネジメント概論 2	□n	
	視覚表現論 1 *	○	
ア ー ト 概 論	視覚表現論 2 *	○	
	造形基礎演習1	△	
デ ジ タ ル ア ー ト	造形基礎演習2	△	
	映像概論	□n	
デ ジ タ ル ア ニ メ ー シ ョ ン	デザイン概論	□n	
	写真概論	□n	
デ ジ タ ル ア ー ト	音楽概論	□n	
	アニメーション概論	△	
デ ジ タ ル ア ー ト	映像理論	△	
	映像設計	△	
デ ジ タ ル ア ニ メ ー シ ョ ン	デザイン演習 1	△	
	デジタル画像表現演習 1	△	
デ ジ タ ル ア ニ メ ー シ ョ ン	音楽情報デザイン	△	
	アニメーション基礎1	△	
デ ジ タ ル ア ニ メ ー シ ョ ン	アニメーション基礎2	△	
	3DCGアニメーション基礎演習1	△	
デ ジ タ ル ア ニ メ ー シ ョ ン	3DCGアニメーション基礎演習2	△	

2年次			
区 分	授 業 科 目	必 選	
基 礎 専 門 科 目	デジタルアート	映像デザイン設計	□d
	デジタルアニメーション	アニメーション演習	△
ア ー ト マ ネ ジ メ ン ト	メディアアート	映像制作基礎演習1	□e
		映像制作基礎演習2	□e
ビ ジ ュ ア ル ア ー ト	ビジュアルアート	映像デザイン基礎演習	□e
		視覚表現論 2	□e
サ ウ ン ド ア ー ト	サウンドアート	視覚表現演習 2	□e
		デザイン演習 2	□e
デ ジ タ ル ア ニ メ ー シ ョ ン	3DCGアニメーション	デジタル画像表現演習 2	□e
		サウンドデザイン演習1	□e
メ ナ ジ	アートマネジメント	サウンドデザイン演習2	□e
		立体的アニメーション基礎演習	△
メ ナ ジ	ビジネス マネジメント	2DCGアニメーション基礎演習	△
		3DCGアニメーション基礎演習3	△
メ ナ ジ	アートマネジメント	3DCGアニメーション基礎演習4	△
		アートプランニング概論	△
メ ナ ジ	ビジネス マネジメント	アートプランニング基礎演習	△
		コミュニケーションデザイン概論	△

2年次			
区 分	授 業 科 目	必 選	
基 礎 専 門 科 目	デジタルアート	映像デザイン設計	△
	デジタルアニメーション	アニメーション演習	○
ア ー ト	メディアアート	映像制作基礎演習1	△
		映像制作基礎演習2	△
ビ ジ ュ ア ル ア ー ト	ビジュアルアート	映像デザイン基礎演習	△
		視覚表現論 2	△
サ ウ ン ド ア ー ト	サウンドアート	視覚表現演習 2	△
		デザイン演習 2	△
デ ジ タ ル ア ニ メ ー シ ョ ン	3DCGアニメーション	デジタル画像表現演習 2	△
		サウンドデザイン演習1	△
メ ナ ジ	アートマネジメント	サウンドデザイン演習2	△
		立体的アニメーション基礎演習	□k
メ ナ ジ	ビジネス マネジメント	2DCGアニメーション基礎演習	□k
		3DCGアニメーション基礎演習3	□k
メ ナ ジ	アートマネジメント	3DCGアニメーション基礎演習4	□k
		アートプランニング概論	△
メ ナ ジ	ビジネス マネジメント	アートプランニング基礎演習	△
		コミュニケーションデザイン概論	△

2年次			
区 分	授 業 科 目	必 選	
基 礎 専 門 科 目	デジタルアート	映像デザイン設計	△
	デジタルアニメーション	アニメーション演習	△
ア ー ト	メディアアート	映像制作基礎演習1	△
		映像制作基礎演習2	△
ビ ジ ュ ア ル ア ー ト	ビジュアルアート	映像デザイン基礎演習	△
		視覚表現論 2	△
サ ウ ン ド ア ー ト	サウンドアート	視覚表現演習 2	△
		デザイン演習 2	△
デ ジ タ ル ア ニ メ ー シ ョ ン	3DCGアニメーション	デジタル画像表現演習 2	△
		サウンドデザイン演習1	△
メ ナ ジ	アートマネジメント	サウンドデザイン演習2	△
		立体的アニメーション基礎演習	△
メ ナ ジ	ビジネス マネジメント	2DCGアニメーション基礎演習	△
		3DCGアニメーション基礎演習3	△
メ ナ ジ	アートマネジメント	3DCGアニメーション基礎演習4	△
		アートプランニング概論	□o
メ ナ ジ	ビジネス マネジメント	アートプランニング基礎演習	□o
		コミュニケーションデザイン概論	□o

○(必修) □(選択必修) △(選択)
*(基幹科目)

3 年次			
区 分	授 業 科 目	必 選	
アート・コース (A R)	メディア アート	映像制作演習1	☐ e
		映像制作演習2	☐ e
		映像デザイン演習	☐ e
	ビジュアル アート	デザイン演習 3	☐ e
		デジタル画像表現演習 3	☐ e
		音楽プロデュース演習1	☐ e
	サウンド アート	音楽プロデュース演習2	☐ e
		立体アニメーション演習	△
		2DCGアニメーション演習	△
	アニメーション	3DCGアニメーション演習	△
		テクスチャー技法演習	△
		モーション・エフェクト技法演習	△
	アートマネジメント	アートプランニング演習	△
		コミュニケーションデザイン演習1	△
		コミュニケーションデザイン演習2	△
専門科目	ビジネス マネジメント	インタラクティブコンテンツ演習	△
		マルチメディアプログラミング演習	△
		ブレ卒業ゼミ	○
	特別活動	特別活動 A (インターン、社会実習等を含む科目教育)	○
		特別活動 B	△

4 年次			
区 分	授 業 科 目	必 選	
アート・コース (A R)	特別活動	特別活動 C	△
		特別活動 D	△
		卒業制作	☐ f
	卒業研究・制作	卒業研究	☐ f

3 年次			
区 分	授 業 科 目	必 選	
アニメーション・コース (A N)	メディア アート	映像制作演習1	△
		映像制作演習2	△
		映像デザイン演習	△
	ビジュアル アート	デザイン演習 3	△
		デジタル画像表現演習 3	△
		音楽プロデュース演習1	△
	サウンド アート	音楽プロデュース演習2	△
		立体アニメーション演習	☐ k
		2DCGアニメーション演習	☐ k
	アニメーション	3DCGアニメーション演習	☐ k
		テクスチャー技法演習	☐ k
		モーション・エフェクト技法演習	☐ k
	アートマネジメント	アートプランニング演習	△
		コミュニケーションデザイン演習1	△
		コミュニケーションデザイン演習2	△
専門科目	ビジネス マネジメント	インタラクティブコンテンツ演習	△
		マルチメディアプログラミング演習	△
		ブレ卒業ゼミ	○
	特別活動	特別活動 A (インターン、社会実習等を含む科目教育)	○
		特別活動 B	△

4 年次			
区 分	授 業 科 目	必 選	
アニメーション・コース (A N)	特別活動	特別活動 C	△
		特別活動 D	△
		卒業制作	☐ l
	卒業研究・制作	卒業研究	☐ l

3 年次			
区 分	授 業 科 目	必 選	
マネジメント・コース (M A)	メディア アート	映像制作演習1	△
		映像制作演習2	△
		映像デザイン演習	△
	ビジュアル アート	デザイン演習 3	△
		デジタル画像表現演習 3	△
		音楽プロデュース演習1	△
	サウンド アート	音楽プロデュース演習2	△
		立体アニメーション演習	△
		2DCGアニメーション演習	△
	アニメーション	3DCGアニメーション演習	△
		テクスチャー技法演習	△
		モーション・エフェクト技法演習	△
	アートマネジメント	アートプランニング演習	☐ o
		コミュニケーションデザイン演習1	☐ o
		コミュニケーションデザイン演習2	☐ o
専門科目	ビジネス マネジメント	インタラクティブコンテンツ演習	☐ o
		マルチメディアプログラミング演習	☐ o
		ブレ卒業ゼミ	○
	特別活動	特別活動 A (インターン、社会実習等を含む科目教育)	○
		特別活動 B	☐ p

4 年次			
区 分	授 業 科 目	必 選	
マネジメント・コース (M A)	特別活動	特別活動 C	☐ p
		特別活動 D	☐ p
		卒業制作	☐ p
	卒業研究・制作	卒業研究	☐ p

○(必修) □(選択必修) △(選択)

1 年次			
区 分	授 業 科 目	必 選	
特別基礎科目	基礎ゼミナール1	○	
	基礎ゼミナール2	○	
	デジタルアート・アニメーション入門	△	
情報と社会	コンピュータリテラシー演習	□a	
	メディアリテラシー演習	□a	
	インターネット演習	* ○	
作品と社会	メディア論	□b	
	アートマネジメント概論 1	□b	
	アートマネジメント概論 2	□b	
自己の再発見	視覚表現論1	* ○	
	視覚表現演習1	* ○	
	造形基礎演習1	□c	
身体感覚とイメージ	造形基礎演習2	□c	
	映像概論	○	
	デザイン概論	△	
アート概論	写真概論	△	
	音楽概論	△	
	アニメーション概論	△	
デジタルアート	映像理論	□d	
	映像設計	□d	
	デザイン演習1	□d	
デジタルアニメーション	デジタル画像表現演習1	□d	
	音楽情報デザイン	□d	
	アニメーション基礎1	△	
	アニメーション基礎2	△	
	3DCGアニメーション基礎演習1	△	
	3DCGアニメーション基礎演習2	△	

1 年次			
区 分	授 業 科 目	必 選	
特別基礎科目	基礎ゼミナール1	○	
	基礎ゼミナール2	○	
	デジタルアート・アニメーション入門	△	
情報と社会	コンピュータリテラシー演習	□g	
	メディアリテラシー演習	□g	
	インターネット演習	* ○	
作品と社会	メディア論	□h	
	アートマネジメント概論 1	□h	
	アートマネジメント概論 2	□h	
自己の再発見	視覚表現論1	* ○	
	視覚表現演習1	* ○	
	造形基礎演習1	□i	
身体感覚とイメージ	造形基礎演習2	□i	
	映像概論	△	
	デザイン概論	△	
アート概論	写真概論	△	
	音楽概論	△	
	アニメーション概論	○	
デジタルアート	映像理論	○	
	映像設計	△	
	デザイン演習1	△	
デジタルアニメーション	デジタル画像表現演習1	△	
	音楽情報デザイン	△	
	アニメーション基礎1	□j	
	アニメーション基礎2	□j	
	3DCGアニメーション基礎演習1	□j	
	3DCGアニメーション基礎演習2	□j	

1 年次			
区 分	授 業 科 目	必 選	
特別基礎科目	基礎ゼミナール1	○	
	基礎ゼミナール2	○	
	デジタルアート・アニメーション入門	△	
情報と社会	コンピュータリテラシー演習	□m	
	メディアリテラシー演習	□m	
	インターネット演習	* ○	
作品と社会	メディア論	○	
	アートマネジメント概論 1	○	
	アートマネジメント概論 2	○	
自己の再発見	視覚表現論1	* ○	
	視覚表現演習1	* ○	
	造形基礎演習1	△	
身体感覚とイメージ	造形基礎演習2	△	
	映像概論	□n	
	デザイン概論	□n	
アート概論	写真概論	□n	
	音楽概論	□n	
	アニメーション概論	□n	
デジタルアート	映像理論	△	
	映像設計	△	
	デザイン演習1	△	
デジタルアニメーション	デジタル画像表現演習1	△	
	音楽情報デザイン	△	
	アニメーション基礎1	△	
	アニメーション基礎2	△	
	3DCGアニメーション基礎演習1	△	
	3DCGアニメーション基礎演習2	△	

2年次				
区 分		授 業 科 目	必 選	
アート・コース (AⅡ)	基礎専門科目	デジタル アート	映像デザイン設計	□d
		デジタル アニメーション	アニメーション演習	△
	アートマネジメント	メディア アート	映像制作基礎演習1	□e
			映像制作基礎演習2	□e
			映像デザイン基礎演習	□e
			視覚表現論2	□e
		ビジュアル アート	視覚表現演習2	□e
			デザイン演習2	□e
			デジタル画像表現演習2	□e
			サウンドアート	サウンドデザイン演習1
		サウンドデザイン演習2	□e	
	アニメーション	立体アニメーション	立体アニメーション基礎演習	△
		2DCGアニメーション	2DCGアニメーション基礎演習	△
		3DCGアニメーション	3DCGアニメーション基礎演習3	△
			3DCGアニメーション基礎演習4	△
			アートプランニング概論	△
アートプランニング基礎演習		△		
マネジメント	ビジネス マネジメント	コミュニケーションデザイン概論	△	

2 年次				
アニメーション・コース (AN)	基礎専門科目	区 分	授 業 科 目	必 選
		デジタル アート	映像デザイン設計	△
	アート	デジタル アニメーション	アニメーション演習	○
		メディア アート	映像制作基礎演習1	△
			映像制作基礎演習2	△
			映像デザイン基礎演習	△
		ビジュアル アート	視覚表現論2	△
			視覚表現演習2	△
	サウンド アート	デザイン演習2	△	
		デジタル画像表現演習2	△	
専門科目		サウンドデザイン演習1	△	
		サウンドデザイン演習2	△	
アニメーション	立体アニメーション	立体アニメーション基礎演習	□k	
	2DCGアニメーション	2DCGアニメーション基礎演習	□k	
	3DCGアニメーション	3DCGアニメーション基礎演習3	□k	
	3DCGアニメーション	3DCGアニメーション基礎演習4	□k	
マネジメント	アートマネジメント	アートプランニング概論	△	
		アートプランニング基礎演習	△	
	ビジネス マネジメント	コミュニケーションデザイン概論	△	

2 年次				
	区 分	授 業 科 目	必 選	
基礎専門科目		デジタル アート	映像デザイン設計	△
		デジタル アニメーション	アニメーション演習	△
マネジメント・コース (M A)	アート	メディア アート	映像制作基礎演習1	△
			映像制作基礎演習2	△
			映像デザイン基礎演習	△
		ビジュアル アート	視覚表現論2	△
			視覚表現演習2	△
			デザイン演習2	△
	サウンド アート	デジタル画像表現演習2	△	
		サウンドデザイン演習1	△	
	アニメーション		サウンドデザイン演習2	△
			立体アニメーション	立体アニメーション基礎演習
2DCGアニメーション			2DCGアニメーション基礎演習3	△
3DCGアニメーション			3DCGアニメーション基礎演習3 3DCGアニメーション基礎演習4	△
マネジメント	アートマネジメント	アートプランニング概論	□o	
	ビジネス マネジメント	アートプランニング基礎演習 コミュニケーションデザイン概論	□o	

○(必修) □(選択必修) △(選択)
*(基幹科目)

3年次			
区 分	授 業 科 目	必 選	
アート・コース (A R)	メディア アート	映像制作演習1	☐ e
		映像制作演習2	☐ e
		映像デザイン演習	☐ e
	ビジュアル アート	デザイン演習3	☐ e
		デジタル画像表現演習3	☐ e
	サウンド アート	音楽プロデュース演習1	☐ e
		音楽プロデュース演習2	☐ e
	アニメーション	立体アニメーション	△
		2DCGアニメーション	△
		3DCGアニメーション	△
		テクスチャー技法演習	△
		モーション・エフェクト技法演習	△
専門科目	アートマネジメント	アートプランニング演習	△
		コミュニケーションデザイン演習1	△
	ビジネス マネジメント	コミュニケーションデザイン演習2	△
		インタラクティブコンテンツ演習	△
		マルチメディアプログラミング演習	△
	ブレ卒業ゼミ	ブレ卒業ゼミ	○
		特別活動A (インターン、社会実習等含む選択科目)	○
	特別活動	特別活動B	△

4年次			
区 分	授 業 科 目	必 選	
アート・コース (A R)	専門科目		
専門科目	特別活動	特別活動C	△
		特別活動D	△
	卒業研究・制作	卒業制作	☐ f
		卒業研究	☐ f

3年次			
区 分	授 業 科 目	必 選	
アニメーション・コース (A N)	メディア アート	映像制作演習1	△
		映像制作演習2	△
		映像デザイン演習	△
	ビジュアル アート	デザイン演習3	△
		デジタル画像表現演習3	△
	サウンド アート	音楽プロデュース演習1	△
		音楽プロデュース演習2	△
	アニメーション	立体アニメーション	☐ k
		2DCGアニメーション	☐ k
		3DCGアニメーション	☐ k
		テクスチャー技法演習	☐ k
		モーション・エフェクト技法演習	☐ k
専門科目	アートマネジメント	アートプランニング演習	△
		コミュニケーションデザイン演習1	△
	ビジネス マネジメント	コミュニケーションデザイン演習2	△
		インタラクティブコンテンツ演習	△
		マルチメディアプログラミング演習	△
	ブレ卒業ゼミ	ブレ卒業ゼミ	○
		特別活動A (インターン、社会実習等含む選択科目)	○
	特別活動	特別活動B	△

4年次			
区 分	授 業 科 目	必 選	
アニメーション・コース (A N)	専門科目		
専門科目	特別活動	特別活動C	△
		特別活動D	△
	卒業研究・制作	卒業制作	☐ l
		卒業研究	☐ l

3年次			
区 分	授 業 科 目	必 選	
マネジメント・コース (M A)	メディア アート	映像制作演習1	△
		映像制作演習2	△
		映像デザイン演習	△
	ビジュアル アート	デザイン演習3	△
		デジタル画像表現演習3	△
	サウンド アート	音楽プロデュース演習1	△
		音楽プロデュース演習2	△
	アニメーション	立体アニメーション	△
		2DCGアニメーション	△
		3DCGアニメーション	△
		テクスチャー技法演習	△
		モーション・エフェクト技法演習	△
専門科目	アートマネジメント	アートプランニング演習	☐ o
		コミュニケーションデザイン演習1	☐ o
	ビジネス マネジメント	コミュニケーションデザイン演習2	☐ o
		インタラクティブコンテンツ演習	☐ o
		マルチメディアプログラミング演習	☐ o
	ブレ卒業ゼミ	ブレ卒業ゼミ	○
		特別活動A (インターン、社会実習等含む選択科目)	○
	特別活動	特別活動B	☐ p

4年次			
区 分	授 業 科 目	必 選	
マネジメント・コース (M A)	専門科目		
専門科目	特別活動	特別活動C	☐ p
		特別活動D	☐ p
	卒業研究・制作	卒業制作	☐ p
		卒業研究	☐ p

○(必修) □(選択必修) △(選択)

総合情報学部デジタルゲーム学科フローチャート (コース別履修モデル)

1年次			2年次				
ゲーム・システムコース	基礎専門科目	ゲーム	ゲーム学 ゲーム工学概論 ゲームの心理学	基礎専門	コミュニケーション	情報産業英語 テクニカル・ライティング	
		情報	プログラミング入門1 プログラミング入門1 演習 プログラミング入門2・演習 アルゴリズム基礎論		人間	認知科学 人間工学	
		人間	知的所有権		ハードウェア	デジタルインタフェース 情報ハードウェア実験	
		数学	論理数学 確率・統計入門 離散数学 基礎幾何学	基盤専門科目	GS(ゲーム・システム)	コンピュータアーキテクチャ ヒューマンインタフェース 情報ネットワーク ソフトウェア設計論 ヒューマンセンシング データ構造とアルゴリズム プログラミング言語	
		理科	基礎力学(基礎化学・基礎生物学) 基礎天文学(基礎物理学・基礎生理学)			演習・実験	プログラミング演習 グループプログラミング演習
		ハードウェア	デジタル回路基礎				
	選択	GP	ゲーム・メディア制作特論				

ゲーム・クリエーションコース

1年次		
基礎専門科目	ゲーム	ゲーム学 ゲームの心理学 ゲームの心理学実験 ゲームの社会学
	情報	コンピュータ入門 プログラミング入門Ⅰ プログラミング入門Ⅰ 演習 アルゴリズム基礎論
	デザイン	デジタル造形 デジタル音楽
	コミュニケーション	日本語表現法
	人間	知的所有権
	数学	確率・統計入門
基盤	GC	グラフィックデザイン・演習
選択	GP	ゲーム・メディア制作特論

2年次		
基礎専門	コミュニケーション	情報産業英語 テクニカル・ライティング
	人間	認知科学
	ハードウェア	情報ハードウェア実験
基盤専門科目	GS(ゲーム・システム)	ソフトウェア設計論 プログラミング言語 データ構造とアルゴリズム
	GC(ゲーム・クリエーション)	コンピュータ・グラフィックス デザイン基礎 デッサンの基礎・実習 インダストリアル・デザイン
	GP(ゲーム・プロデュース)	ゲームシナリオ アミューズメントと福祉
	演習・実験	プログラミング演習

ゲーム・プロデュースコース

1年次		
基礎専門科目	ゲーム	ゲーム学 ゲームの心理学 ゲームの心理学実験 ゲームの社会学
	情報	コンピュータ入門 プログラミング入門1 プログラミング入門1 演習
	デザイン	デジタル造形 デジタル音楽
	コミュニケーション	日本語表現法
	人間	知的所有権 認知科学
基盤	GC	グラフィックデザイン・演習
選択	GP	ゲーム・メディア制作特論

2年次		
基礎専門	ゲーム コミュニケーション	ゲームの行動学 情報産業英語 テクニカル・ライティング コミュニケーション論 アンケート調査法基礎
	人間	問題解決の基礎
基盤専門科目	GC(ゲーム・クリエーション) GP(ゲーム・プロデュース)	デザイン基礎 ゲームシナリオ メディア・ビジネス論 ゲーム評価法・演習 アミューズメントと福祉 メディア・プロデュース マーケティング論 コンセプト・メーカー

3年次			4年次		
基 盤 専 門	演習・実験	ゲームインタフェース実験 ゲームプログラミング演習	選 択 専 門	GC(ゲーム・クリエーション)	情報セキュリティ
	プレゼミ			演習・実験・実習	VRプログラミング演習 ゲーム制作実習
選 択 専 門 科 目	GS(ゲーム・システム)	コンピュータハードウェア ゲームセンサー論 プログラミングシステム論 オペレーティングシステム 並列分散ソフトウェア データベース オブジェクト指向 ユニバーサルデザイン論			
	GC(ゲーム・クリエーション)	ゲームプログラミング技法 Webプログラミング			
卒業研究(3年後期から)					

太字は
共通必修科目 と
各コース別必修科目
を表します

太字斜線 は
各コース別選択必修科目
を表します

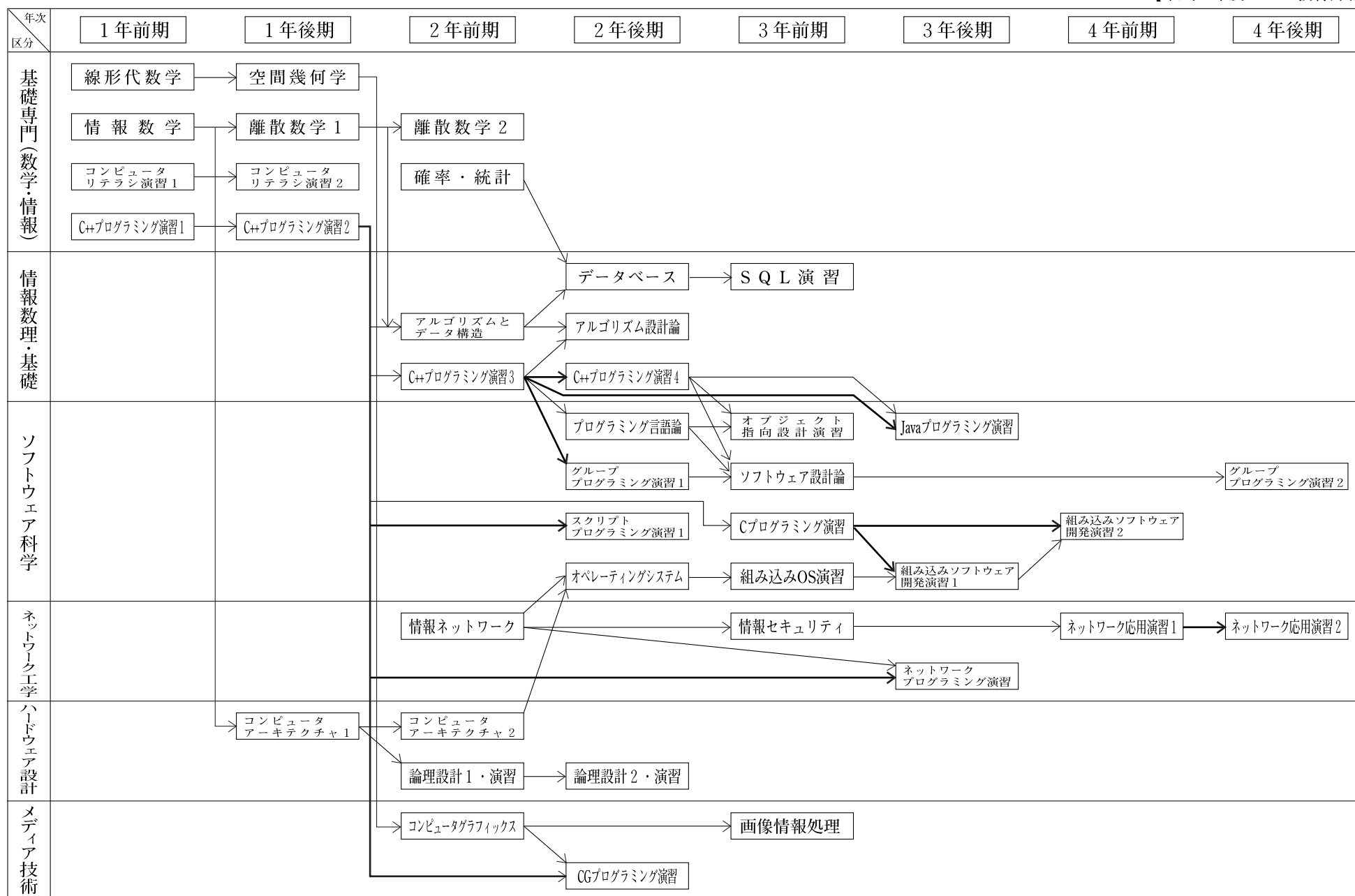
斜線 は
各コース別選択科目
を表します

3年次			4年次		
基 盤 専 門	演習・実験	ゲームインタフェース実験 ゲームプログラミング演習	選 択 専 門	GC(ゲーム・クリエーション)	放送システム 映像音響論
	プレゼミ			演習・実験・実習	モーションプログラミング実験
選 択 専 門 科 目	GS(ゲーム・システム)	プログラミングシステム論 データベース			
	GC(ゲーム・クリエーション)	サインデザイン ゲームプログラミング技法 シミュレーション技法 3Dグラフィックス コンピュータ・アニメーション Webプログラミング バーチャル・リアリティ ゲームデザイン コンピュータミュージック・実習			
	GP(ゲーム・プロデュース)	Webデザイン・演習 エデュテイメント・デザイン インストラクショナル・デザイン			
卒業製作(3年後期から)					

3年次			4年次		
基 盤 専 門	演習・実験	ゲームプログラミング演習	選 択 専 門	GC(ゲーム・クリエーション)	放送システム 映像音響論
	プレゼミ			GP(ゲーム・プロデュース)	DTP エクサテイメント・デザイン リハビリテーション医学概論
選 択 専 門 科 目	GC(ゲーム・クリエーション)	サインデザイン コンピュータ・アニメーション バーチャル・リアリティ ゲームデザイン コンピュータミュージック・実習 福祉機器デザイン			
	GP(ゲーム・プロデュース)	Webデザイン・演習 市場調査法 コマーシャル・デザイン エデュテイメント・デザイン インストラクショナル・デザイン 人間コミュニケーション論 高齢者心理学 障害者心理学			

メディアコンピュータシステム専門科目履修フローチャート

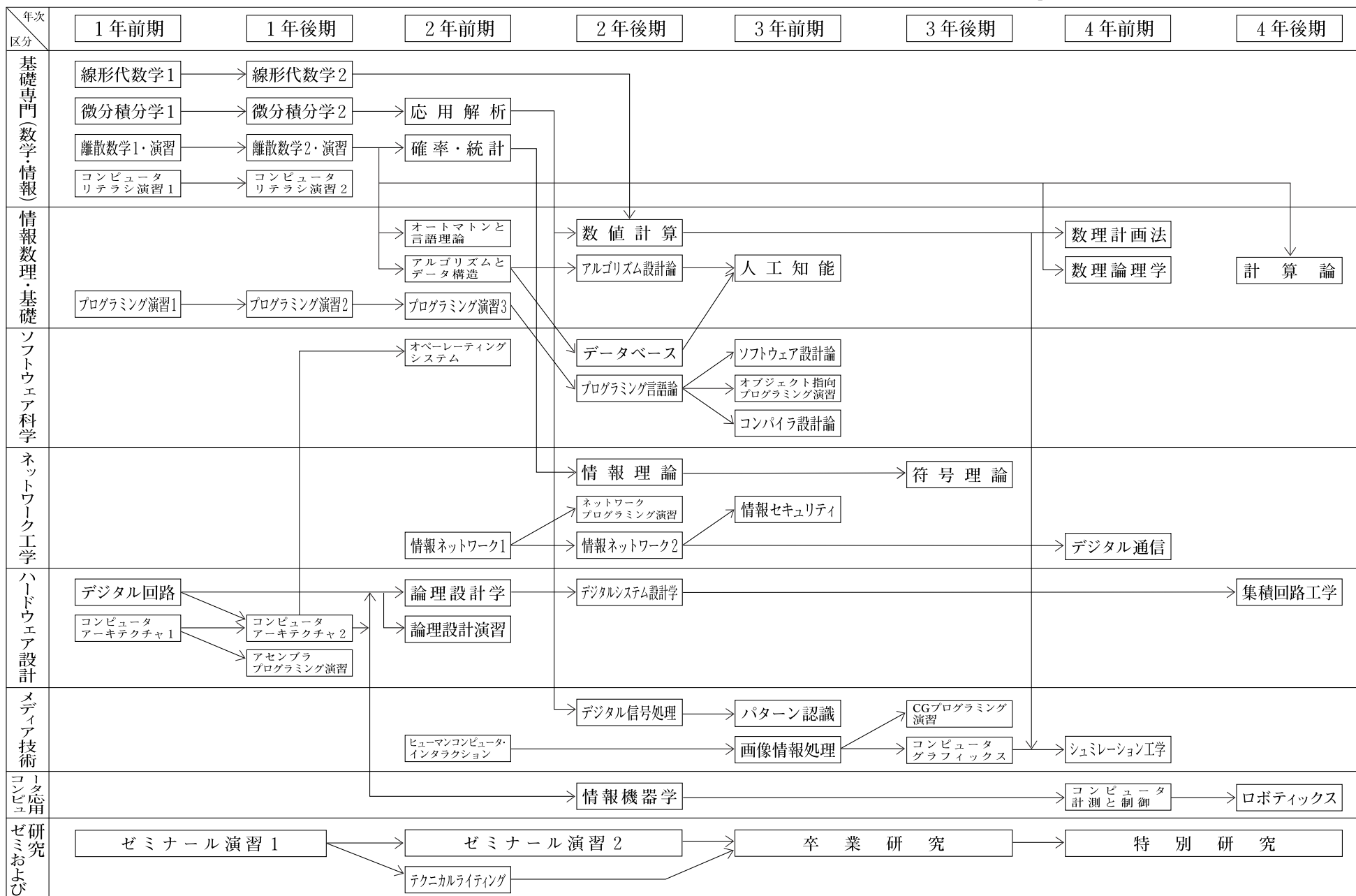
【平成21年度からの教育課程】



【注意】 1. フローチャートには主に主要科目だけを掲載している。その他の科目はシラバスの先修科目を参照してください。
 2. 太い矢印 → は履修上の先修条件となっているので注意してください。

メディアコンピュータシステム専門科目履修フローチャート

【平成17年度から平成20年度までの教育課程】



【注意】フローチャートには掲載されていない科目もあるので注意すること。またこのフローはおおよその目安であるので、先修科目の詳細はJABEE対応シラバスを参照のこと。

アセット・マネジメント学科 履修モデル

		1年次		2年次		3年次		4年次		
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	
		金 融 教 育				投 資 教 育				
		導 入 教 育		投 資 知 識 教 育		投 資 ス キ ル 教 育		実 践 訓 練 教 育		
総 合 科 目	(人間・社会・ 科 学 群)	異 文 化 の 理 解								
		経 済 学 入 門								
		経 営 学 入 門								
		情報社会と情報モラル								
	(外国語群)	英語リーディング1	英語リーディング2	英語リーディング3	英語リーディング4					
		英語コミュニケーション1	英語コミュニケーション2	英語コミュニケーション3	英語コミュニケーション4					
(健康スポーツ群)		ス ポ ー ツ 実 習 1	ス ポ ー ツ 実 習 2	健 康 科 学 概 論						
専 門 教 育 科 目	基 礎 専 門 科 目	簿 記 入 門	金 融 論 概 論	アセットマネジメント入門	証 券 管 理 入 門					
		情 報 活 用 術 基 礎	証 券 投 資 論 基 礎	コーポレートファイナンス入門	証 券 分 析 入 門					
		JPモルガンアセットマネジメント講座	投資の社会的責任	コンプライアンス入門	実用プログラミング					
			コンピュータ構築術	情 報 活 用 術 応 用						
			プレゼンテーション演習1	プレゼンテーション演習2						
			マ ク ロ 経 済 学	ミ ク ロ 経 済 学						
			基 礎 数 学	確 率 ・ 統 計						
	専 門 科 目	専 門 科 目				財 務 諸 表 分 析	数 理 計 画			
						ポ ー ト フ ォ リ オ 理 論	金 融 経 済 学			
						債 券 投 資 理 論	イ ン タ ー ン シ ッ プ			
						株 式 投 資 理 論	金 融 英 語 1	金 融 英 語 2		
			学科共通				ゼ ミ ナ ー ル 1	ゼ ミ ナ ー ル 1	ゼ ミ ナ ー ル 2	ゼ ミ ナ ー ル 2
							[コース共通]			
						証 券 管 理 論 A	ポ ー ト フ ォ リ オ マ ネ ジ メ ン ト 理 論	ビ ジ ネ ス 英 語 3	ビ ジ ネ ス 英 語 4	
						ビ ジ ネ ス 英 語 1	キ ャ リ ア プ ラ ン ニ ン グ 論	ア セ ッ ト ア ロ ケ ー シ ョ ン 特 論	行 動 ファ イ ナ ン ス 論	
							証 券 ア ナ リ ス ト 演 習			
							ビ ジ ネ ス 英 語 2			
						[資産運用プログラム]				
						金 融 工 学 概 論	デ リ バ テ ィ ブ 入 門		ク オ ン ツ イ ン ベ ス ト メ ン ト 特 論	
						国 際 分 散 投 資 論	証 券 管 理 論 B			
						[資産管理プログラム]				
						国 際 分 散 投 資 論	証 券 管 理 論 B	証 券 管 理 論 演 習 1	証 券 管 理 論 演 習 2	
								ク オ ン ツ イ ン ベ ス ト メ ン ト 特 論		
						[企業財務プログラム]				
			管 理 会 計 論	経 営 財 務 論	コ ー ポ レ ー ト ファ イ ナ ン ス 特 論					
			原 価 計 算 論							
			監 査 論							
			市 場 調 査 法	経 営 財 務 論	金 融 商 品 マ ー ケ テ ィ ン グ 特 論	フ ァ イ ナ ン シ ャ ル プ ラ ン ニ ン グ 特 論				
				キ ャ リ ア プ ラ ン ニ ン グ 論	保 険 年 金 特 論	ク オ ン ツ イ ン ベ ス ト メ ン ト 特 論				
				証 券 ア ナ リ ス ト 演 習		行 動 ファ イ ナ ン ス 論				
				F P 演 習 2		不 動 産 投 資 特 論				
						株 式 債 券 投 信 特 論				

(5) 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報

【進級・卒業要件一覧表】

工学部

(平成19年度からの教育課程)

区分		卒業要件単位数						
		学科	電気電子工学科	応用化学科	電子機械工学科	機械工学科	環境技術学科	基礎理工学科
総合科目	A群	8～25単位						
	B群	12～29単位						
	C群	3～6単位						
	計	24～40単位						
特別基礎科目		選択科目	—	0～6単位※				
専門科目	基礎専門科目	必修科目	5単位	3単位	5単位	6単位	—	3単位
		選択科目	19～35単位	0～30単位	19～35単位	18～34単位	20～40単位	21～37単位
		計	24～40単位	3～33単位	24～40単位	24～40単位	20～40単位	24～40単位
	専門科目	必修科目	卒業研究	8単位	8単位	8単位	8単位	8単位
			卒業研究以外	40単位	16単位	12単位	35単位	20単位
		選択必修科目	—	—	—	□a 8～22単位 □b 4～12単位	—	2～4単位
		選択科目	8～32単位	0～77単位	36～60単位	0～25単位	32～56単位	27～53単位
		計	56～80単位	2 ～ 1 0 1 単位	56～80単位	56～80単位	60～84単位	56～80単位
		合計	128単位					

※印：総合科目、基礎専門科目及び専門科目の中の選択科目の卒業要件単位に充当することができる。

2年次進級要件	1 休学・停学期間を除き1年以上在学していること。 2 総修得単位30単位以上を修得していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位66単位以上を修得していること。 3 次の授業科目の単位を修得していること。 電気電子工学科：(学科専門科目のうち、1～2年次配当の必修科目34単位中16単位以上 応用化学科：(授業科目、単位の指定はない。) 電子機械工学科：(授業科目、単位の指定はない。) 機械工学科：(授業科目、単位の指定はない。) 環境技術学科：(授業科目、単位の指定はない。) 基礎理工学科：(授業科目、単位の指定はない。))
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 卒業要件単位数のうち、100単位以上を修得していること。 3 次の授業科目の単位を修得していること。 電気電子工学科：(学科専門科目のうち、1～3年次配当の必修科目40単位から、下記の単位を含む30単位以上。 工学基礎実験 2単位、電気電子工学実験1 2単位、電気電子工学実験2 2単位、 基礎電磁気学・演習 2単位、電気回路1 2単位、基礎電子回路 2単位、 電気回路演習 2単位、プレゼミナール 2単位 応用化学科：プレゼミナール 2単位 電子機械工学科：必修科目(卒業研究除く)17単位中、プレゼミナール2単位を含む13単位以上 機械工学科：プレゼミナール 2単位 環境技術学科： ① 環境技術実験1 2単位、環境技術実験2 2単位、環境技術基礎演習1 4単位、環境技術基礎演習2 4単位 以上12単位中8単位以上 ② 電気実験 2単位、プレゼミナール 2単位 計 4単位 基礎理工学科：プレゼミナール 2単位
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数128単位以上を修得していること。

(注) 留年生に対する特例処置

- ① 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。3年次進級要件を満たした場合は、次年度に3年次へ進級することができる。
- ② 留年したことがある2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。ただし、プレインターンシップゼミナール及びインターンシップの履修は認めない。4年次進級要件を満たした場合は、次年度に4年次へ進級することができる。
- ③ 上記①②とも
 - ・低学年配当の必修科目を優先に履修する。

医療福祉工学部 医療福祉工学科

(平成20年度からの教育課程)

区分				卒業要件単位数
総合科目		A群		8～24単位
		B群		12～28単位
		C群		4～6単位
		計		24～40単位
専門教育科目	基礎専門科目	選択科目		24～40単位
	専門科目	必修科目	卒業研究	8単位
			卒業研究以外	14単位
		選択科目		50～58単位
		計		72～80単位
	合計			

2年次進級要件	1 休学・停学期間を除き1年以上在学していること。 2 総修得単位30単位以上を修得していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位62単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 卒業要件単位数のうち100単位以上を修得していること。 3 学科で指定する次の授業科目の単位を修得していること。 生理学 2単位、解剖学 2単位、プレゼミ 2単位 計 6単位 電気工学・実験又は電子工学・実験いずれか4単位 以上合計10単位
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数128単位以上を修得していること。

(注) 履修上の取り扱い

① 他学科履修

医療福祉工学部の他学科専門科目のうち、指定された授業科目について、選択科目として30単位まで履修することができる。ただし、在籍年次より上の年次に配当されている授業科目については履修できない。また、受講人数が多い場合は、履修制限を行う。

- ② 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。3年次進級要件を満たした場合は、次年度に3年次へ進級することができる。ただし、次の学科で指定する授業科目の履修は認めない。

組み込みソフトウェア演習、マイコン制御プログラミング演習、プログラミング応用演習1、
プログラミング応用演習2、電気工学・実験、電子工学・実験、機械工学演習

- ③ 留年したことがある2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。4年次進級要件を満たした場合は、次年度に4年次へ進級することができる。ただし、次の学科で指定する授業科目の履修は認めない。

医療情報システム演習、Webデザイン演習、電気電子回路演習、情報技術特別演習、
医療情報学特別演習、福祉住環境特別演習

④ 上記②③とも

- ・低学年配当の必修科目を優先に履修する。

医療福祉工学部 理学療法学科

(平成22年度からの教育課程)

区分				卒業要件単位数
総合科目		A群		8～24単位
		B群		12～28単位
		C群		4～8単位
		計		24～40単位
専門教育科目	基礎専門科目	選択科目		8～14単位
	専門科目	必修科目	卒業研究	8単位
			卒業研究以外	85単位
		選択科目		0～3単位
		計		93～96単位
合計				128単位

2年次進級要件	1 休学・停学期間を除き1年以上在学していること。 2 総修得単位30単位以上を修得していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位62単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 卒業要件単位数のうち100単位以上を修得していること。 3 学科で指定する次の授業科目の単位を修得していること。 臨床理学療法学演習2 2単位、総合理学療法学特論2 2単位 計4単位
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数128単位以上を修得していること。

(注) 留年生に対する特例処置

- ① 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。3年次進級要件を満たした場合は、次年度に3年次へ進級することができる。
- ② 留年したことのあつた2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。4年次進級要件を満たした場合は、次年度に4年次へ進級することができる。
- ③ 上記①②とも
 - ・低学年配当の必修科目を優先に履修する。

医療福祉工学部 健康スポーツ科学科

(平成20年度からの教育課程)

区分				卒業要件単位数
総合科目		A群		8～40単位
		B群		12～44単位
		計		24～52単位
専門教育科目	基礎専門科目	選択科目		8～20単位
	専門科目	必修科目	卒業研究	8単位
			卒業研究以外	4単位
		選択科目		60～84単位
	計		72～96単位	
合計				128単位

2年次進級要件	1 休学・停学期間を除き1年以上在学していること。 2 総修得単位30単位以上を修得していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位62単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 卒業要件単位数のうち100単位以上を修得していること。
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数128単位以上を修得していること。

(注) 履修上の取り扱い

① 他学科履修

医療福祉工学部の他学科専門科目のうち、指定された授業科目について、選択科目として30単位まで履修することができる。ただし、在籍年次より上の年次に配当されている授業科目については履修できない。また、受講人数が多い場合は、履修制限を行う。

- ② 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。3年次進級要件を満たした場合は、次年度に3年次へ進級することができる。ただし、次の学科で指定する授業科目の履修は認めない。

情報技術特別演習

- ③ 留年したことのあつた2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。4年次進級要件を満たした場合は、次年度に4年次へ進級することができる。ただし、次の学科で指定する授業科目の履修は認めない。

医療統計学演習、Webデザイン演習、介護技術特別演習、福祉住環境特別演習

④ 上記②③とも

- ・低学年配当の必修科目を優先に履修する。

情報通信工学部 情報工学科

(平成18年度からの教育課程)

区分			卒業要件単位数	
総合科目		A群	8～25単位	
		B群	12～29単位	
		C群	3～6単位	
		計	24～40単位	
特別基礎科目		選択科目	0～6単位※	
専門教育科目	基礎専門科目		必修科目	12単位
			選択科目	12～28単位
			計	24～40単位
	専門科目	基盤専門科目	必修科目	4単位
			選択科目	0～22単位
		群別専門科目	選択科目	20～66単位
			その他	必修科目
		選択科目		0～8単位
		卒業研究	必修科目	8単位
		計		56～80単位
合計			128単位	

※印：総合科目、基礎専門科目および専門科目の中の選択科目の卒業要件単位に充当することができる。

2年次進級要件	1 休学・停学期間を除き1年以上在学していること。 2 総修得単位30単位以上を修得していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位66単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 卒業要件単位数のうち、100単位以上を修得していること。 3 学科で指定する次の授業科目の単位を修得していること。 Cプログラミング入門演習1 2単位、Cプログラミング入門演習2 2単位、電子基礎実験1 2単位、 電子基礎実験2 2単位 計 8単位
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、卒業要件単位数128単位以上を修得していること。

(注) 留年生に対する特例処置

- ① 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。
3年次進級要件を満たした場合は、次年度に3年次へ進級することができる。
- ② 留年したことのある2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。ただし、プレインターンシップゼミナール及びインターンシップの履修は認めない。
4年次進級要件を満たした場合は、次年度に4年次へ進級することができる。
- ③ 上記①②とも
・低学年配当の必修科目を優先に履修する。

情報通信工学部 通信工学科

(平成18年度からの教育課程)

区分				卒業要件単位数	
				H履修プログラム	S履修プログラム
総合科目		A群		8～25単位	
		B群		12～29単位	
		C群		3～6単位	
		計		24～40単位	
特別基礎科目		選択科目		0～6単位※	
専門教育科目	基礎専門科目	必修科目		7単位	
		選択科目		17～33単位	
		計		24～40単位	
	専門科目	必修科目	卒業研究	8単位	
			卒業研究以外	18単位	
		選択必修科目		□H 10～14単位	□S 10～14単位
		選択科目		16～44単位	
		計		56～80単位	
合計		128単位			

※印:総合科目、基礎専門科目および専門科目の中の選択科目の卒業要件単位に充当することができる。

2年次進級要件	1 休学・停学期間を除き1年以上在学していること。 2 総修得単位30単位以上を修得していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位66単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 学科で指定する次の卒業要件単位数を修得していること。 各履修プログラムの卒業要件単位数のうち100単位以上を修得していること。 3 学科で指定する次の授業科目の単位を修得していること。 物理学・実験 3単位、プログラミング基礎演習 2単位、基礎電気回路 2単位、工学基礎実験 2単位、情報通信工学実験1 2単位、情報通信工学実験2 2単位、プレゼミナール 2単位 計 15単位
卒業要件	1 休学・停学期間を除き4年以上在学していること。 2 学科で指定する次の卒業要件単位数を修得していること。 各履修プログラムの卒業要件単位数128単位以上をいずれかの履修プログラムにおいて修得していること。

(注) 留年生に対する特例処置

- ① 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。ただし、次の学科で指定する授業科目の履修は認めない。

情報通信工学実験1、情報通信工学実験2

3年次進級要件を満たした場合は、次年度に3年次へ進級することができる。

- ② 留年したことのあつた2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。ただし、次の学科で指定する授業科目の履修は認めない。

情報通信工学応用実験1、情報通信工学応用実験2、インターンシップ

4年次進級要件を満たした場合は、次年度に4年次へ進級することができる。

- ③ 上記①②とも

・低学年配当の必修科目を優先に履修する。

総合情報学部 デジタルアート・アニメーション学科

(平成20年度からの教育課程)

区分		卒業要件単位数			
		アート履修プログラム	アニメーション履修プログラム	マネジメント履修プログラム	
総合科目	A群	8～24単位			
	B群	12～28単位			
	C群	4～12単位			
	計	24～40単位			
専門教育科目	基礎専門科目	必修科目	12単位	16単位	16単位
		選択必修科目	☐ a 2～4単位	☐ g 2～4単位	☐ m 2～4単位
			☐ b 2～6単位	☐ h 2～6単位	☐ n 6～10単位
			☐ c 4～8単位	☐ i 2～8単位	—
			☐ d 4～12単位	☐ j 2～8単位	—
		選択科目	0～22単位	0～18単位	0～22単位
		計	24～42単位		
	専門科目	必修科目	4単位	4単位	4単位
		選択必修科目	☐ e 18～50単位	☐ k 16～36単位	☐ o 10～20単位
			☐ f 8単位	☐ l 8単位	☐ p 2～8単位
		選択科目	0～50単位	0～52単位	8～64単位
		計	46～80単位		
合計		128単位			

2年次進級要件	1 休学・停学期間を除き1年以上在学していること。 2 総修得単位30単位以上を修得していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位62単位以上を修得していること。 3 各履修プログラムの指定する次の授業科目の単位をいずれかの履修プログラムにおいて修得していること。 (1) アート履修プログラム 当該履修プログラム内の1年次及び2年次に配当された必修科目及び選択必修科目のうち、30単位以上を修得していること。 (2) アニメーション履修プログラム 当該履修プログラム内の1年次及び2年次に配当された必修科目及び選択必修科目のうち、32単位以上を修得していること。 (3) マネジメント履修プログラム 当該履修プログラム内の1年次及び2年次に配当された必修科目及び選択必修科目のうち、12単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 各履修プログラムの卒業要件単位数のうち、いずれかの履修プログラムにおいて100単位以上を修得していること。 3 学科で指定する次の授業科目の単位を修得していること。 インターネット演習 2単位、視覚表現論1 2単位、視覚表現演習1 2単位、プレ卒業ゼミ 2単位 計 8単位
卒業要件	1 休学・停学期間を除き4年以上在学していること。 2 各履修プログラムの卒業要件単位数128単位以上をいずれかの履修プログラムにおいて修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修できる単位数は、60単位を超えないものとする。ただし、留年生については、この限りではない。

(注2) 留年生に対する特例処置

- ① 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。
3年次進級要件を満たした場合は、次年度に3年次へ進級することができる。
- ② 留年したことのあつた2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。
4年次進級要件を満たした場合は、次年度に4年次へ進級することができる。
- ③ 留年したことのあつた3年次生が卒業要件を満たした場合は、卒業することができる。
- ④ 留年したことのあつた4年次生が、前期に卒業要件を満たした場合は、9月に卒業することができる。
- ⑤ 上記①②とも
・低学年配当の必修科目を優先に履修する。

総合情報学部 デジタルゲーム学科

(平成20年度からの教育課程)

区分	卒業要件単位数		
総合科目	A群	24～40単位	8～24単位
	B群		12～28単位
	C群		4～10単位
専門教育科目	必修科目	10単位	
	選択科目	70～88単位	
	卒業研究・卒業制作	6～8単位	
計			128単位

2年次進級要件	休学・停学期間を除き1年以上在学していること。
3年次進級要件	休学・停学期間を除き2年以上在学していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 学科で指定する次の授業科目の単位を修得していること。 ゲーム学 2単位、ゲームの心理学 2単位、知的所有権 2単位、プレゼミ 2単位、ゼミナール 2単位 計 10単位
卒業要件	1 休学・停学期間を除き4年以上在学していること。 2 卒業要件単位数 128単位以上を修得していること。 3 少なくとも2つのユニット修得認定要件を満たしていること。 4 卒業研究又は卒業制作を修得していること。

(注1) 履修上の取り扱い

- ① 一年度内に履修できる単位数は、60単位を超えないものとする。ただし、留年生については、この限りではない。
- ② 専門教育科目のうち、選択科目については、在籍年度より上の年次に配当されている授業科目も履修可とする。ただし、受講人数が多い場合は、履修制限を行う。
- ③ ユニットの修得認定要件
各ユニット科目の中から、必修科目を含み38単位以上修得すること。
卒業するためには、2つのユニットの修得認定要件を満たすこと。
- ④ 他学科履修
総合情報学部他学科専門科目のうち、指定された授業科目について、選択科目として20単位まで履修することができる。ただし、在籍年次より上の年次に配当されている授業科目については履修できない。また、受講人数が多い場合は、履修制限を行う。

総合情報学部 メディアコンピュータシステム学科

(平成21年度からの教育課程)

区分		卒業要件単位数	
		CSコース (コンピュータサイエンス教育プログラム)	IPコース (情報処理教育プログラム)
総合科目	A群	8単位	8～24単位
	B群	12単位(英語科目)	12～28単位
	C群	4単位	4～8単位
	計	24単位	24～40単位
基礎専門科目	必修科目	20単位	8単位
	選択必修科目	□a 6～8単位	□c 14～20単位
	選択科目	0～12単位	4～12単位
	計	26～40単位	26～40単位
専門科目	必修科目	46単位	14単位
	選択必修科目	□b 18～32単位	□d 16～26単位
	選択科目	—	18～48単位
	計	64～78単位	48～78単位
合計		128単位	128単位

(注) CSコースでは、専門科目の選択科目は卒業要件単位数として数えられません。

2年次進級要件	1 休学・停学期間を除き1年以上在学していること。 2 総修得単位30単位以上を修得していること。 3 次の授業科目の単位を修得していること。 ゼミナール演習1 2単位
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位62単位以上を修得していること。 3 次の授業科目の単位を修得していること。 ゼミナール演習2 2単位
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 IPコースの卒業要件単位数のうち88単位以上を修得していること。 3 次の授業科目の単位を修得していること。 卒業研究 8単位
卒業要件	休学・停学期間を除き4年以上在学し、CSコース又はIPコースの卒業要件単位数128単位以上を修得していること。

(注1) 履修制限

- ① 一年度内に履修できる単位数は、60単位を超えないものとする。ただし、留年生については、この限りではない。
- ② 2年次特例生(注3②)及び、3年次生は卒業研究を行うことを原則とする。ただし、卒業研究履修中に、授業時間割に編成された卒業研究の時間において、次の授業科目については履修することができる。
 - (a) C++プログラミング演習1、C++プログラミング演習2、コンピュータシステム実験、ゼミナール演習2
 - (b) 教職課程における免許取得上の必修科目
 - (c) 2年次特例生においては、62から修得単位数を減じた単位数分の授業科目。ただし、これは(a)の授業科目も含まれるものとする。

(注2) 先修条件

- ① C++プログラミング演習2の単位が未修得である場合、以下の科目を履修することができない。
スクリプト言語プログラミング演習、CGプログラミング演習、ネットワークプログラミング演習
- ② C++プログラミング演習3の単位が未修得である場合、以下の科目を履修することができない。
Javaプログラミング演習、C++プログラミング演習4
- ③ Cプログラミング演習の単位が未修得である場合、以下の科目を履修することができない。
組み込みソフトウェア開発演習1、組み込みソフトウェア開発演習2
- ④ ネットワーク応用演習1の単位が未修得である場合、ネットワーク応用演習2を履修することができない。

(注3) 留年生に対する特例処置

- ① 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目を履修することができる。ただし、次の授業科目の履修は認めない。
論理設計1・演習、論理設計2・演習
3年次進級要件を満たした場合は、次年度に3年次へ進級することができる。
- ② 留年したもののある2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目を履修することができる。ただし、次の授業科目の履修は認めない。
組み込みOS演習、ネットワークプログラミング演習、Javaプログラミング演習、組み込みソフトウェア開発演習1
4年次進級要件を満たした場合は、次年度に4年次へ進級することができる。
- ③ 休学・停学期間を除き3年以上在学する3年次生は、3年次配当科目のほか、4年次配当科目を履修することができる。ただし、次の授業科目の履修は認めない。
組み込みソフトウェア開発演習2、グループプログラミング演習2、特別研究
- ④ 留年したもののある3年次生又は4年次生は、卒業要件を満たした場合は、卒業することができる。

(注4) 他学科履修

4年次生は総合情報学部他学科の開講科目の中で、学科で指定された科目を同一年度に10単位まで履修することができる。なお合格した場合は専門科目の選択科目として単位認定する。

金融経済学部 アセット・マネジメント学科

(平成21年度からの教育課程)

区分			卒業要件単位数	
			1コース 〔ファンドマネジメント(FM)コース〕	2コース 〔キャリアスキル(CS)コース〕
総合科目	人間・社会・科学群	必修科目	2単位	
		選択科目	6～23単位	
		計	8～24単位	
	外国語群		12～28単位	
	健康・スポーツ群		3～6単位	
	計		24～40単位	
専門教育科目	基礎専門科目	必修科目	24単位	24単位
		選択科目	10～36単位	10～36単位
		計	34～60単位	
	専門科目	必修科目	16単位	14単位
		選択科目	24～50単位	26～52単位
		計	40～66単位	
合計			124単位	

2年次進級要件	1 休学・停学期間を除き1年以上在学していること。 2 総修得単位30単位以上を修得していること。
3年次進級要件	1 休学・停学期間を除き2年以上在学していること。 2 総修得単位62単位以上を修得していること。
4年次進級要件	1 休学・停学期間を除き3年以上在学していること。 2 各コースの卒業要件単位数のうち、いずれかのコースにおいて100単位以上を修得していること。
卒業要件	1 休学・停学期間を除き4年以上在学していること。 2 各コースの卒業要件単位数のうち、いずれかのコースにおいて124単位以上を修得していること。

(注1) 履修制限

一年度内に履修登録できる単位数は、42単位を超えないものとする。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者が、履修指導により認められた場合は、この限りではない。

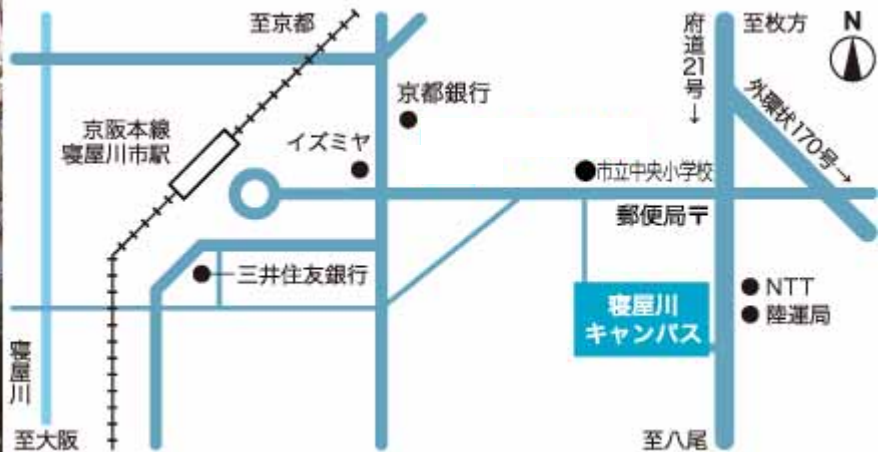
(注2) 留年生に対する特例処置

- ① 留年した1年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が20単位以上の者は、1年次配当科目のほか、2年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。3年次進級要件を満たした場合は、次年度に3年次へ進級することができる。
- ② 留年したことの ある2年次生で前年度までの進級要件に対する修得単位数が50単位以上の者は、2年次配当科目のほか、3年次に配当された科目のうち30単位以内の授業科目の履修を認める。4年次進級要件を満たした場合は、次年度に4年次へ進級することができる。
- ③ 留年したことの ある3年次生が卒業要件を満たした場合は、卒業することができる。
- ④ 留年したことの ある4年次生が、前期に卒業要件を満たした場合は、9月に卒業することができる。

(6) 学習環境に関する情報

大阪電気通信大学

寝屋川キャンパス (○工学部 ○情報通信工学部 ○金融経済学部)



寝屋川キャンパス

京阪本線寝屋川市駅下車 徒歩7分

[急行(快速急行)停車駅]

梅田から寝屋川キャンパスまで・・・約35分

三ノ宮から寝屋川キャンパスまで・・・約60分

京都から寝屋川キャンパスまで・・・約60分

奈良から寝屋川キャンパスまで・・・約80分

四條畷キャンパス (○医療福祉工学部 ○総合情報学部)



京阪本線大和田駅下車

京阪バス 四條畷電通大行 約20分

JR学研都市線四條畷駅下車

近鉄バス 四條畷電通大行 約10分

大阪から四條畷キャンパスまで・・・約30分

三ノ宮から四條畷キャンパスまで・・・約60分

京都から四條畷キャンパスまで・・・約60分

奈良から四條畷キャンパスまで・・・約80分

(7) 学生納付金に関する情報

大学

学部	項目	金額(円)
工学部 情報通信工学部 総合情報学部	入学金	200,000
	学費(内訳 単位：円) 授業料 985,000 維持拡充費 340,000	1,325,000
医療福祉工学部医療福祉工学科	入学金	200,000
	学費(内訳 単位：円) 授業料 985,000 維持拡充費 340,000 実験実習料 50,000	1,375,000
医療福祉工学部理学療法学科	入学金	200,000
	学費(内訳 単位：円) 授業料 985,000 維持拡充費 340,000 実験実習料 300,000	1,625,000
医療福祉工学部健康スポーツ科学科	入学金	200,000
	学費(内訳 単位：円) 授業料 985,000 維持拡充費 240,000 実習料 100,000	1,325,000
金融経済学部	入学金	200,000
	学費(内訳 単位：円) 授業料 800,000 維持拡充費 200,000	1,000,000

上記納入金とは別に、諸会費が必要です。

諸会費

	入学手続き時納入	次年度
学友会費	7,000	7,000
同窓会費	35,000	0
後援会費	20,000	0
合計	62,000	7,000

2年目からの諸会費は学友会費 7,000 円のみとなります。

大学院

修士課程

		2010 年度納入額		次年度納入額
		入学手続き時	後期	
入学金		100,000	—	—
学費	授業料	450,000	450,000	900,000
	実験実習料	75,000	75,000	150,000
合計		625,000	525,000	1,050,000

上記納入金とは別に、委託を受けて徴収する委託徴収費が必要です。

博士後期課程

		2010 年度納入額		次年度納入額
		入学手続時	後期	
入学金		100,000	—	—
学費	授業料	450,000	450,000	900,000
	実験実習料	75,000	75,000	150,000
奨学金		250,000	250,000	500,000
合計		375,000	275,000	550,000

大阪電気通信大学大学院修士課程在籍者については、入学金を免除します。

博士後期課程特待生制度により、全学生に年額 50 万円の奨学金が給付されます。

奨学金は前期・後期の学費と相殺して給付されます。

よって入学時および後期の学費の支払い額は上記の学費から奨学金の金額を差し引いた額となります。

上記納入金とは別に、委託を受けて徴収する委託徴収費が必要です。

委託徴収費

	工学研究科 総合情報学研究科 医療福祉工学研究科		工学研究科 総合情報学研究科 医療福祉工学研究科	
	(修士課程)		(博士後期課程)	
	入学手続時納入	次年度	入学手続時納入	次年度
(1) 同窓会費	35,000	0	35,000	0
(2) 後援会費	10,000	0	0	0
合計	45,000	0	35,000	0

(8) 奨学金・特待生制度の概要

奨学金の種類		種別	募集 時期	金額（円）	期間	条件等
日本学生支援機構						
大学	第一種奨学金	貸与 （無利子）	4 月	月額 30,000、54,000（自宅） 30,000、64,000（自宅外）	最短修業年限	成績 1/3 以内の学生 （新入生は、高校での評定平均値 3.5 以上）
	第二種奨学金	貸与 （有利子）	4 月	月額 30,000、50,000、80,000 100,000、120,000	最短修業年限	人物・成績共に良好な学生
	緊急採用奨学金	貸与 （無利子）	随時	月額 30,000、54,000（自宅） 30,000、64,000（自宅外）	原則 1 年	経済事情の急変のあった学生
	応急採用奨学金	貸与 （有利子）	随時	月額 30,000、50,000、80,000、 100,000、120,000	1 年	経済事情の急変のあった学生
	入学時特別増額	貸与 （有利子）	4 月	月 額 100,000 、 200,000 、 300,000、 400,000、500,000	1 回	1 年次のみ

大 学 院	第一種奨学金	貸与 (無利子)	4 月	月額 50,000、88,000 (修士) 80,000、122000 (博士)	最短修業年限	学内選考
	第二種奨学金	貸与 (有利子)	4 月	月額 50,000、80,000、100,000 130,000、150,000	最短修業年限	学内選考
	緊急採用奨学金	貸与 (無利子)	随時	月額 50,000、88,000 (修士) 80,000、122000 (博士)	原則 1 年	経済事情の急変のあった学生
	応急採用奨学金	貸与 (有利子)	随時	月額 50,000、80,000、100,000 130,000、150,000	1 年	経済事情の急変のあった学生
	入学時特別増額	貸与 (有利子)	4 月	年 額 100,000 200,000 300,000 400,000 500,000	1 回	1 年次のみ
大阪電気通信大学						
	大阪電気通信大学 大学院 修士課程特待生奨 学金	給付	4 月	年額 80,000、96,000、160,000、 200,000、320,000、350,000、 480,000 (各専攻による)	最短修業年限	学内選考 進級時選考あり
	大阪電気通信大学 大学院 博士課程特待生制 度	給付	4 月	年額 500,000	最短修業年限	学内選考 進級時選考あり
	大阪電気通信大学 教育ローン利子補 給奨学金	給付	随時	在学中におけるローンにかかる 利子相当額	最短修業年限(入学 予定期間を含む)	指定の教育ローンを利用し学費 を納入した学生
大阪電気通信大学後援会・友電会						
	大阪電気通信大学 後援会・友電会貸与 奨学金	貸与 (無利子)	随時	500,000 まで	原則 1 回	経済事情の急変のあった学生
その他民間団体等 (H22 年度実績)						
	あしなが育英会	貸与 (無利子)	4 月～ 5 月	月額 40,000	最短修業年限	保護者が病気等で死亡又は後遺 障害をもった学生
	交通遺児育英会	貸与 (無利子)	4 月～ 5 月	月額 40,000～60,000	最短修業年限	保護者が交通事故等で 死亡又は後遺障害をもった 学生
	小野奨学金	給付	4 月～ 5 月	月額 30,000 (学部) 60,000 (大学院)	最短修業年限	学部 1 年生 大学院 1 年生 (学内選考)
	中西奨学金	給付	4 月～ 5 月	月額 27,000 (学部) 33,000 (大学院)	2 年	工学部 3 年生 工学研究科 1 年生 (学内選考)
	船井奨学会	給付	4 月～ 5 月	月額 15,000	4 年	学部 1 年生

奥村奨学会	給付	4月～ 5月	月額 30,000	最短修業年限	学部生
朝鮮奨学会	給付	4月～ 5月	月額 25,000（学部） 40,000（大学院）	1年	国籍（韓国・朝鮮）
東大阪市教育委員会	貸与 （無利子）	4月～ 5月	月額 17,000	最短修業年限	東大阪市在住
アイコム電子通信 工学振興財団	給付	12月 ～1月	月額 50,000	1年	学部3年以上又は大学院生の うち、電子通信工学の基礎知識の ある学生
タイガー育英会	給付	4月～ 5月	月額 15,000	最短修業年限	工学研究科の学生 （学内選考）
大東育英会	給付	4月～ 5月	月額 15,000	1年（継続あり）	学部生
亀岡市教育委員会	給付	4月～ 5月	月額 10,000	最短修業年限	本人又は保護者が亀岡市在住

3 特徴ある取り組みの概要

（1） 教育に関する取り組み

＜学部・学科に共通な基礎教育をサポート＞

大阪電気通信大学では、人間科学研究センター、英語教育センター、数理科学研究センターの総合教育機関を設置しています。語学や心理学、数学や物理など、専門の学問を学ぶうえで必要となる基礎教育をサポートしています。

人間科学研究センター

人間的に深みのある研究者を育成するため、心理学や教育学、社会学や経済学など社会人としての教養と理解を促す教育を提供します。

英語教育センター

英語は技術者にとって専門知識や技術とともに必要なツールの一つです。論文の記述や文献の調査に役立つ英語力を養えるようサポートします。

数理科学研究センター

数学・物理系科目の基礎教育をサポートします。習熟度や内容に応じたコース制で講義・演習・実験を実施。個別相談も設けています。

（2）個人の力を伸ばす学習システム

大学で学ぶことを確実に自分のものにするように、大阪電気通信大学では独自の学習システムを実施しています。基礎学力を高める習熟度別クラスの設置や、基本マナーの指導など、少人数制で行き届いた教育を行います。

グループ担任制

学生 10 名程度の小グループに担任教員がつき、勉強をはじめ学生生活全般をマンツーマンでサポートします。

プレインターンシップゼミナール

インターンシップ（企業研修）へ行く前に、企業から派遣された講師が、礼儀作法などの基礎マナーを指導します。

習熟度別クラス

英語や数字などの科目では、個人のレベルに応じたコースで学習します。個別相談できる学内塾も開講しています。

ケータイ出席システム

ケータイで出席をとるユニークな試み。休講などのお知らせや、自分の時間割や出席状況などの確認も行えます。

（３） 産学連携

産学連携講座の一覧

きんでん講座

本講座では、株式会社きんでんの協力のもと、送配電工学が対象とする送電線・配電線などの設備がどのように構成され、運用されているのか、発展の歴史、設備の特徴、基本的電気技術、建設保守運用技術概要などを学習します。

SANYO講座

低炭素社会を実現する上で、クリーンなエネルギーを創り、蓄え、賢く使うことが重要となっています。本講座では、三洋電機株式会社の協力のもと、太陽光発電、二次電池、パワーエレクトロニクス技術を例に、これからのエネルギー社会を考える為に必要な技術理解と、新たなライフスタイルを創造していく為の考える場を提供します。

J Pモルガン・アセット・マネジメント講座

個人金融資産が約1500兆円とも言われる日本において、預貯金から投資への時流に乗って成長し続けているアセット・マネジメント業界。本講座では、J Pモルガン・アセット・マネジメント株式会社の協力のもと、ポートフォリオ理論等の学習だけでなく、運用業務の実務にも踏み込んだ内容で、将来、資産運用のプロを目指す学生や、ゆとりある生活や夢の実現を目的とする個人投資家としての最適な資産設計にも役立たせることを目的とします。

中央三井信託銀行特別講座

高齢化と核家族化が進むわが国では、今後、個人の「資産の管理・保全・承継」が益々重要なテーマとなり、個別事案の問題解決に当たる専門的担い手の養成が必要となります。本講座では、中央三井信託銀行株式会社の協力のもと、このテーマに関する制度や手法（相続・贈与・遺言・信託・後見など）及び基本的な法務・税務・実務について事例を織込みながら取り上げ、この分野の担い手に必要な基礎的知識・技能の修得を目指します。

電気電子連携講座

近年、交通機関において、電気電子工学が貢献する範囲が拡大しています。例えば、鉄道においては、電力供給システム、集電システム、列車制御・運行管理システム、座席予約システム、自動改札、保安全管理等に電気電子工学が活用されています。

本講座では、日本電設工業株式会社の協力のもと、体験談を交えながら、第一線で活躍している企業の技術者から、鉄道における電気電子工学の応用について学びます。

野村證券講座

本講座では、野村證券株式会社の協力のもと、資本市場の役割と証券投資を中心的なテーマとして、それらに関する重要な項目について学習します。

パナソニック講座

本講座では、パナソニック株式会社の協力のもと、次の世代を担う大学院生、社会人を対象にして、パナソニック社（松下電器産業株式会社）が20世紀という歴史をどのように歩んできたかを学び、研究とは、技術開発とは、経営とは、などについて議論することを目的とします。

三菱電機講座

近年、「省エネ」ニーズの高まりに伴い、エネルギーを効率よく変換するパワーエレクトロニクス技術の重要性がますます増大しています。

本講座では、三菱電機株式会社の協力のもと、パワーエレクトロニクス技術の応用に必要な各要素技術についての理解を深めると共に、その応用製品における適用技術について学びます。

（４） 国際交流

これからの社会で活躍するには、技術力だけでなく国際的な視野やコミュニケーション力が必要です。大阪電気通信大学では、海外大学と連携し海外留学や国際交流を実施。学力向上のチャンスや豊かな経験を提供します。

シェリダンカレッジ／トロント大学

2004年秋から、CG・アニメーションの分野で世界的に有名なカナダのシェリダン大学（Sheridan College：オンタリオ州オークヴィル）と、学生の相互交流や共同研究の提供を実施しています。学生はホームステイをしながら、カナダの学生とペアになってプログラムに参加し、お互いの文化に触れ友情をはぐくみます。また、お互いの学校の授業に参加することで、自分たちの専門領域をより国際的な視点で学ぶことができます。

江南大学（2007年5月16日 学術交流協定締結）

中国の江南大学（江蘇省無錫市）と、中国のデジタルアニメーション産業を支える人材育成を目的に、共同研究、教職員・学生の交流、研究成果などの交換などを行います。2009年から江南大学の学生交流が開始しました。

ブリティッシュコロンビア大学

カナダのブリティッシュコロンビア大学（UBC、バンクーバー）への海外留学。同窓会組織「友電会」の主催で、本年度で31回目。夏期休暇中の約4週間、実践的な英語の習得を目的に幅広いプログラムを学習します。

湖南大学

専門知識の修得と日韓の交流を深めることを目的に、湖南大学（韓国）の学生と教員を毎年受け入れています。半年の留学期間で日本語および専門分野について学習し、日本の教育と文化を体験し交流を深めています。

ユトレヒト芸術大学（2009年10月25日 学術交流協定締結）

学問の発展と、教育や研究の相互協力を目的にした学生及びスタッフの交換留学が行われています。技術力や文化の違いを実際に体験し、豊かな経験となっています。

北京科技大学（2010年7月23日 学術交流協定締結）

共同研究、学生、教職員との交流、研究成果等の資料交換などをさらに推進することを目的に、学術交流協定を締結しました。

3 財務の概要

1 学校法人会計基準の概略

国または地方公共団体から経常費補助金の交付を受ける学校法人は、私立学校振興助成法の定めにより「学校法人会計基準」に従い、会計処理を行い、計算書類を作成し、公認会計士または監査法人による監査を受けて所轄庁に届け出ることが義務づけられています。

「学校法人会計基準」に定められている計算書類は、資金収支計算書、消費収支計算書及び貸借対照表です。また、私立学校法によりこれらの他に財産目録、事業報告書を作成することになっています。

①資金収支計算書とは、

当該会計年度の教育研究その他の諸活動に伴うすべての収入及び支出の内容と、当該会計年度の支払資金の収入及び支出の顚末を明らかにするために作成する計算書です。

②消費収支計算書とは、

当該会計年度の消費収入及び消費支出の内容を明らかにし、消費収支の均衡状態を把握して、学校法人の経営状態をみるために作成する重要な計算書です。

資金収支計算書では、全ての収入支出を表しており、負債となる借入金や預かり金の収入、返済金払い出し金などの支出が含まれていますが、消費収支計算書では、それらは含まれません。

消費収入の部では、帰属収入の中の「寄付金」には収入を伴わない現物寄付が含まれ、資産を売却した場合の売却益である「資産売却差額」が含まれています。消費支出の部では、支払資金ではない「退職給与引当金繰入額」、「減価償却額」、資産を売却した売却損や廃棄した場合の「資産処分差額」等の科目が含まれています。

「基本金組入額」とは、学校法人が、教育研究その他の諸活動の計画に基づき、取得した資産を継続的に保持するために維持すべきものとして、帰属収入のうちから組入れた金額であり、組入れ対象資産として、次の4つに区分されます。

・第一号基本金

設立当初に取得した固定資産で教育の用に供されるものの価額又は新たな学校の設置若しくは既設の学校の規模の拡大若しくは教育の充実向上のための固定資産の価額

・第二号基本金

新たな学校の設置又は既設の学校の規模の拡大若しくは教育の充実向上のために将来取得する固定資産の取得に充てる金銭その他の資産の額

・第三号基本金

基金として継続的に保持し、かつ、運用する金銭その他の資産の額

・第四号基本金

恒常的に保持すべき資金として定められた計算により算出された額

消費収支計算の結果を表す当期消費収支超過額は、当年度における消費収入と消費支出の均衡状況を表します。学校法人は、学校を維持し、良質な教育研究活動を永続的に行うことを目的として、長期的な収支均衡を求めるもので、単年度の収支均衡まで求めるものではありません。

③貸借対照表とは、

日々の取引の結果に基づいて、年度末における学校法人の資産、負債の内容、純資産（資産－負債）の額を明らかにするために作成する計算書です。

また、基本金に対する純資産の過不足状態を消費収支差額として表します。

④財産目録とは

一定時点における学校法人の資産と負債について、個別に価格を付して記載した明細表をいいます。学校法人が所有する土地や建物の面積、図書の冊数などを知ることができます。

2 平成22年度決算の概要

①資金収支計算書

【収入の部】

ア. 学生生徒等納付金収入

大学では、学生数の減少等により、納付金全体で、前年度より42,262千円(△0.6%)減収となりました。

高校では、生徒数の増加により、前年度より41,492千円(8.8%)の増収となりました。

イ. 手数料収入

手数料収入の大部分を占める入学検定料は、志願者数の増加で、前年度より大学で5,923千円、高校で540千円増額となりました。法人全体では、その他の手数料収入も合わせて、前年度比で7,943千円(5.6%)の増収となりました。

ウ. 寄付金収入

一般寄付金、企業からの奨学寄付金などが、26,916千円です。

エ. 補助金収入

大学では、私大施設整備費補助金が50,630千円減少したこと等により、補助金全体で、前年度より52,928千円の減収となりました。

高校では、大阪府経常費補助金の増額などで、補助金全体で、前年度比27,781千円の増収となりました。

オ. 資産運用収入

預金、有価証券、特定資産の受取利息および配当金収入は、銀行預金の利息12,915千円、有価証券の運用益収入150,637千円で、合わせて前年度より54,616千円(33.4%)多い163,553千円です。また、施設設備利用料収入は、前年度より6,219千円少ない24,712千円となりました。

カ. 資産売却収入

有価証券の売却収入であり、その売却益は、236,211千円です。

キ. 事業収入

大学で、スクールバス乗車賃などの補助活動収入19,889千円、学外諸団体からの研究受託収入(22件)など、60,039千円です。

ク. 雑収入

主として、退職者に対する私学退職金財団からの交付金収入(14名分)332,503千円であり、雑収入全体では、前年度より16,401千円の減収となりました。

ケ. 前受金収入

平成23年度新入生から徴収した入学金などの学費で、学費納入者数は大学院生115名(43名減)、大学で1,306名(48名減)、高校で405名(56名増)となり、その他の前受金も含めて、前年度より49,922千円の減収となりました。

【支出の部】

ア. 人件費支出

法人全体の人件費支出総額は5,035,814千円となり、前年度より48,420千円(△1.0%)少なく支出しました。その内容としては、教職員等の給与として4,501,915千円支出し、前年度より30,075千円(0.7%)の増額、退職金は15名分533,99千円支出し、前年度より78,495千円の減額となりました。

イ. 教育研究経費支出・管理経費支出

大学で、演習室機器リース料の減少などで、教育・管理経費合わせて、前年度より46,745千円少ない2,835,166千円支出しました。

ウ. 借入金等利息支出

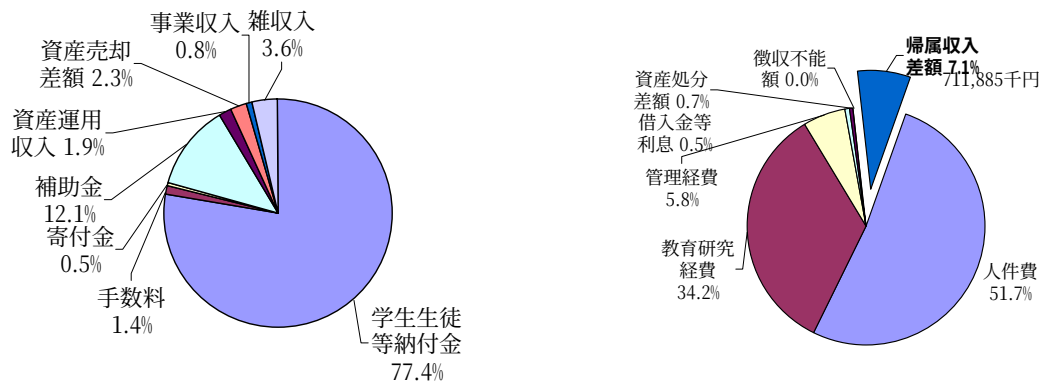
前年度より3,904千円(△8.7%)少ない44,752千円を支出しました。

エ. 借入金等返済支出

日本私立学校振興・共済事業団へ188,280千円、都市銀行へ58,632千円、支出しました。

②消費収支計算書

■ 帰属収入及び消費支出の内訳



法人全体の帰属収入（負債にならない収入）の合計は、10,060,433千円であり、予算よりも210,380千円、前年度比で204,027千円(2.0%)増加しました。その主な内容は、資産売却差額185,291千円などが増加し、補助金25,147千円などが前年度と比較して減少となっています。

法人全体の消費支出の部の合計は、9,348,548千円であり、予算よりも109,459千円、前年度より7,881千円(△0.1%)減少しました。その内容は、人件費23,062千円が前年度と比較して増加しましたが、資産処分差額19,426千円などが減少しました。

以上により、帰属収入のうち消費支出の占める割合は92.9%となり、基本金組入額は予算より345,553千円減少し、帰属収入から基本金組入額を控除した消費収入の部合計は、予算よりも555,933千円増加しました。当期の消費支出超過額は、予算では1,221,748千円を計上していましたが、556,356千円となりました。

③貸借対照表

学校法人の資産総額は、43,305,717千円であり、前年度より1,003,225千円(2.3%)増加しました。その内訳として、固定資産は、土地534,000千円、建物1,213,734千円増加、建設仮勘定1,237,590千円減少などで、「有形固定資産」が446,572千円(1.4%)増加、「その他の固定資産」は、ソフトウェア300,749千円増加、退職給与引当特定資産155,424千円増加、施設設備等拡充引当特定資産334,238千円減少などにより、87,418千円(1.3%)の増加となりました。また、現金預金、有価証券、未収入金などの「流動資産」は、現金預金の増加などにより、前年度より469,235千円(9.8%)増加となりました。

一方、他人資金である負債の総額は、前年度より291,340千円増加し7,706,724千円となり、法人の総資産のうち、総負債の占める割合（総負債比率）は、前年度の17.5%から17.8%に増加しました。

以上の結果、資産の部合計から負債の部を控除したいわゆる自己資金（基本金の部＋消費収支差額の部）は、前年度より711,885千円増加しました。

④財産目録

平成22年度、駅前学舎完成により、前年度より土地が1,178㎡・534,000千円、建物が4,715㎡・1,213,734千円、構築物が16,516千円増加し、建設仮勘定が1,237,590千円減少しました。

法人全体の資産総額から負債総額を控除した正味財産は、前年度より711,885千円増加し、35,598,992千円となりました。

監事監査報告書

平成 23 年 5 月 11 日

学校法人大阪電気通信大学

理 事 会 御中

評 議 員 会 御中

学校法人大阪電気通信大学

監事 秋國 仁孝 ㊞

監事 成瀬 淳 ㊞

当学校法人監事は、平成 22 年度における当学校法人の業務並びに財産の状況について、私立学校法第 37 条第 3 項に基づき、両監事協議の上、本報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監事の監査の方法の概要

- (1) 両監事は、理事会、評議員会、財務会議等の重要会議に出席するほか、理事等から学校法人運営の状況の報告を聴取し、重要な決済書類等を閲覧するなどして、業務及び財産の状況を調査いたしました。
- (2) 財産状況の監査については、会計監査人有限責任監査法人トーマツから監査の方法並びに監査の経過報告及び説明を受け、計算書類につき検討を加えました。

2. 監査の結果

- (1) 資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表並びに財産目録は、法令及び寄附行為に従い、学校法人の収支及び財産の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 学校法人の業務または財産に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実は認められません。

以上

3 計算書類及び財産目録

①資金収支計算書

資金収支計算書

(単位 百万円)

科目	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
収 入 の 部					
学生生徒等納付金収入	8,272	8,080	7,969	7,784	7,783
手数料収入	143	127	128	133	141
寄付金収入	16	27	29	35	27
補助金収入	1,217	1,236	1,184	1,238	1,214
国庫補助金収入	781	819	755	849	782
地方公共団体補助金収入	436	417	429	389	432
資産運用収入	269	293	159	140	188
資産売却収入	4,216	5,405	419	208	672
事業収入	221	265	101	73	80
雑収入	593	589	537	380	364
借入金等収入	700	1,000	0	0	0
前受金収入	1,506	1,383	1,419	1,470	1,420
その他の収入	894	1,236	4,807	1,704	2,610
資金収入調整勘定	△ 2,190	△ 2,313	△ 1,815	△ 1,840	△ 1,836
前年度繰越支払資金	4,594	3,994	3,519	4,393	3,722
収入の部合計	20,451	21,322	18,456	15,718	16,385
支 出 の 部					
人件費支出	5,771	5,481	5,163	5,084	5,036
教育研究経費支出	2,554	2,432	2,366	2,321	2,277
管理経費支出	640	640	724	562	558
借入金等利息支出	26	39	52	49	45
借入金等返済支出	116	96	152	191	247
施設関係支出	1,394	2,186	2,006	1,617	1,252
設備関係支出	461	239	548	425	698
資産運用支出	5,014	6,447	2,485	1,546	2,266
その他の支出	1,777	1,552	1,528	1,168	1,156
資金支出調整勘定	△ 1,296	△ 1,309	△ 961	△ 967	△ 1,414
次年度繰越支払資金	3,994	3,519	4,393	3,722	4,264
支出の部合計	20,451	21,322	18,456	15,718	16,385

②消費収支計算書

消費収支計算書

(単位 百万円)

科目	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
消 費 収 入 の 部					
学生生徒等納付金	8,272	8,080	7,969	7,784	7,783
手数料	143	127	128	133	141
寄付金	42	62	51	57	55
補助金	1,217	1,236	1,184	1,238	1,214
国庫補助金	781	819	755	849	782
地方公共団体補助金	436	417	429	389	432
資産運用収入	269	293	159	140	188
資産売却差額	89	125	15	51	235
事業収入	221	265	101	73	80
雑収入	602	589	537	380	364
帰属収入合計	10,855	10,777	10,144	9,856	10,060
基本金組入額合計	△ 1,013	△ 1,082	△ 2,214	△ 1,763	△ 1,268
消費収入の部合計	9,842	9,695	7,930	8,093	8,792
消 費 支 出 の 部					
人件費	5,680	5,486	5,094	5,177	5,200
教育研究経費	3,543	3,468	3,434	3,446	3,444
管理経費	667	674	753	591	587
借入金等利息	26	39	52	49	45
資産処分差額	34	146	1,761	92	72
徴収不能額	0	0	2	1	0
消費支出の部合計	9,950	9,813	11,096	9,356	9,348
当年度消費支出超過額	108	118	3,166	1,263	556
前年度繰越消費支出超過額	5,185	5,294	5,411	8,578	9,840
翌年度繰越消費支出超過額	5,293	5,412	8,577	9,841	10,396

③貸借対照表

貸 借 対 照 表

(単位 百万円)

科目	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
資 産 の 部					
固定資産	36,580	38,273	36,867	38,002	38,536
有形固定資産	27,861	29,101	30,520	31,299	31,746
土地	11,426	11,426	11,426	11,426	11,960
建物	10,854	10,687	13,721	13,471	14,685
その他の有形固定資産	5,581	6,988	5,373	6,402	5,101
その他の固定資産	8,719	9,172	6,347	6,703	6,790
流動資産	5,044	5,079	4,971	4,300	4,770
現金預金	3,994	3,519	4,393	3,722	4,264
その他の流動資産	1,050	1,560	578	578	506
資産の部合計	41,624	43,352	41,838	42,302	43,306
負 債 の 部					
固定負債	4,189	5,043	4,782	4,628	4,577
長期借入金	1,815	2,663	2,471	2,225	1,978
その他の固定負債	2,374	2,380	2,311	2,403	2,599
流動負債	3,059	2,971	2,668	2,787	3,129
短期借入金	96	152	191	247	246
その他の流動負債	2,963	2,819	2,477	2,540	2,883
負債の部合計	7,248	8,014	7,450	7,415	7,706
基本金の部					
第 1 号基本金	38,748	39,829	42,044	43,807	45,075
第 3 号基本金	318	318	318	318	318
第 4 号基本金	603	603	603	603	603
基本金の部合計	39,669	40,750	42,965	44,728	45,996
消費収支差額の部					
翌年度繰越消費支出超過額	5,293	5,412	8,577	9,841	10,396
消費収支差額の部合計	△ 5,293	△ 5,412	△ 8,577	△ 9,841	△ 10,396
負債の部、基本金の部及び 消費収支差額の部合計	41,624	43,352	41,838	42,302	43,306

④財産目録

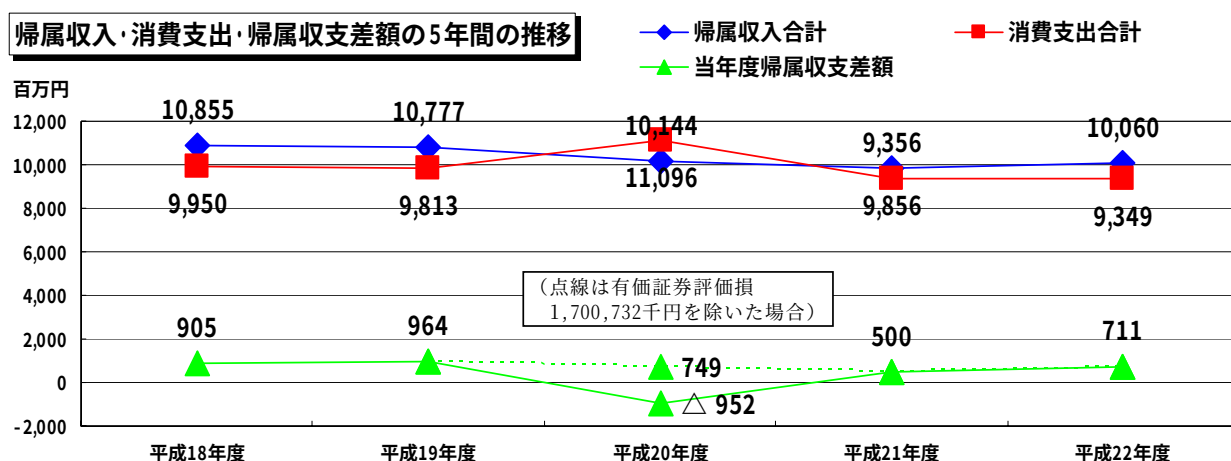
財 産 目 録

(単位 百万円)

	平成 18 年度		平成 19 年度		平成 20 年度		平成 21 年度		平成 22 年度	
I 資産総額	41,623		43,352		41,838		42,302		43,306	
内 1 基本財産	27,861		29,101		30,520		31,299		31,746	
2 運用財産	13,762		14,251		11,318		11,003		11,560	
II 負債総額	7,248		8,013		7,451		7,415		7,707	
III 正味財産	34,375		35,339		34,387		34,887		35,599	
資産額										
1 基本財産										
土地（団地）	477,720 m ²	11,426	477,711 m ²	11,426	477,711 m ²	11,426	477,638 m ²	11,426	478,816 m ²	11,960
建物	97,324 m ²	10,854	97,633 m ²	10,687	112,944 m ²	13,721	113,795 m ²	13,471	118,510 m ²	14,685
図書	305,812 冊	1,363	293,096 冊	1,295	291,080 冊	1,301	280,275 冊	1,268	280,524 冊	1,259
教具、工具及び備品	35,367 点	2,910	34,676 点	2,602	34,526 点	2,604	34,508 点	2,472	35,385 点	2,401
構築物		1,305		1,410		1,418		1,423		1,440
その他		3		1		1		1		1
建設仮勘定		0		1,680		49		1,238		0
2 運用財産										
預金、現金		3,994		3,519		4,393		3,722		4,264
積立金		8,687		9,135		6,312		6,632		6,456
その他		1,081		1,597		613		649		840
資 産 総 額	41,623		43,352		41,838		42,302		43,306	
負債額										
1 固定負債										
長期借入金		1,815		2,663		2,471		2,225		1,979
その他		2,374		2,379		2,312		2,403		2,599
2 流動負債										
短期借入金		96		152		191		247		246
その他		2,963		2,819		2,477		2,540		2,883
負 債 総 額	7,248		8,013		7,451		7,415		7,707	
正味財産 （資産総額－負債総額）	34,375		35,339		34,387		34,887		35,599	

4 経年比較

①消費収支状況の推移

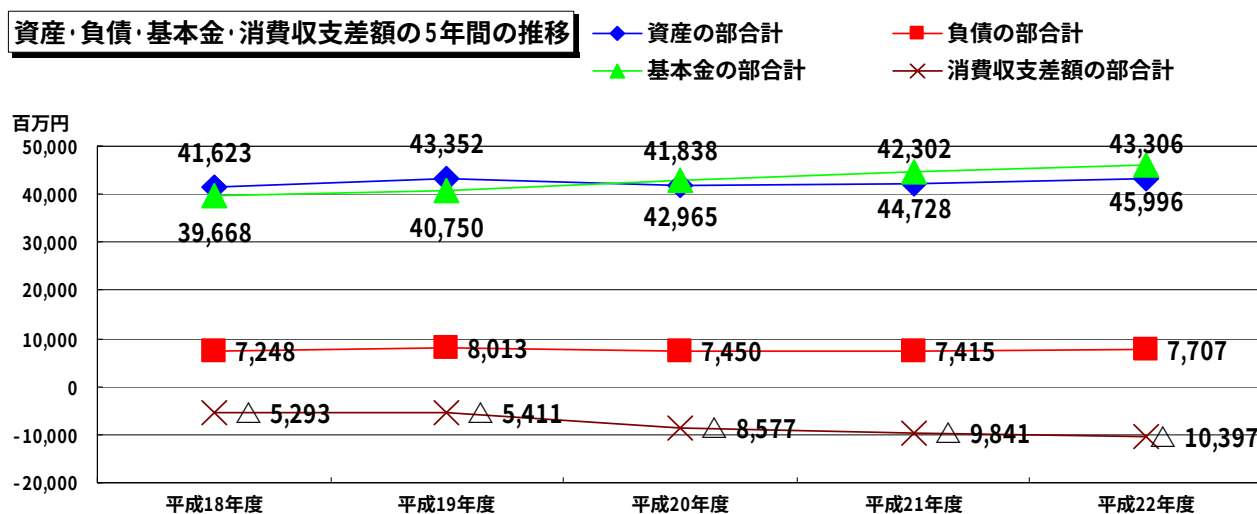


＊ 人件費につきましては、平成17年度に退職給与引当金を50%から100%に変更し、その差額を10年間毎年250,875千円の繰入れを行っています。

＊ 平成20年度には、米国に端を発した金融恐慌と世界同時不況による株価の暴落及び円高により、有価証券評価損 1,700,732千円（投資信託1,441,557千円、ユーロ債259,175千円）を計上しました。

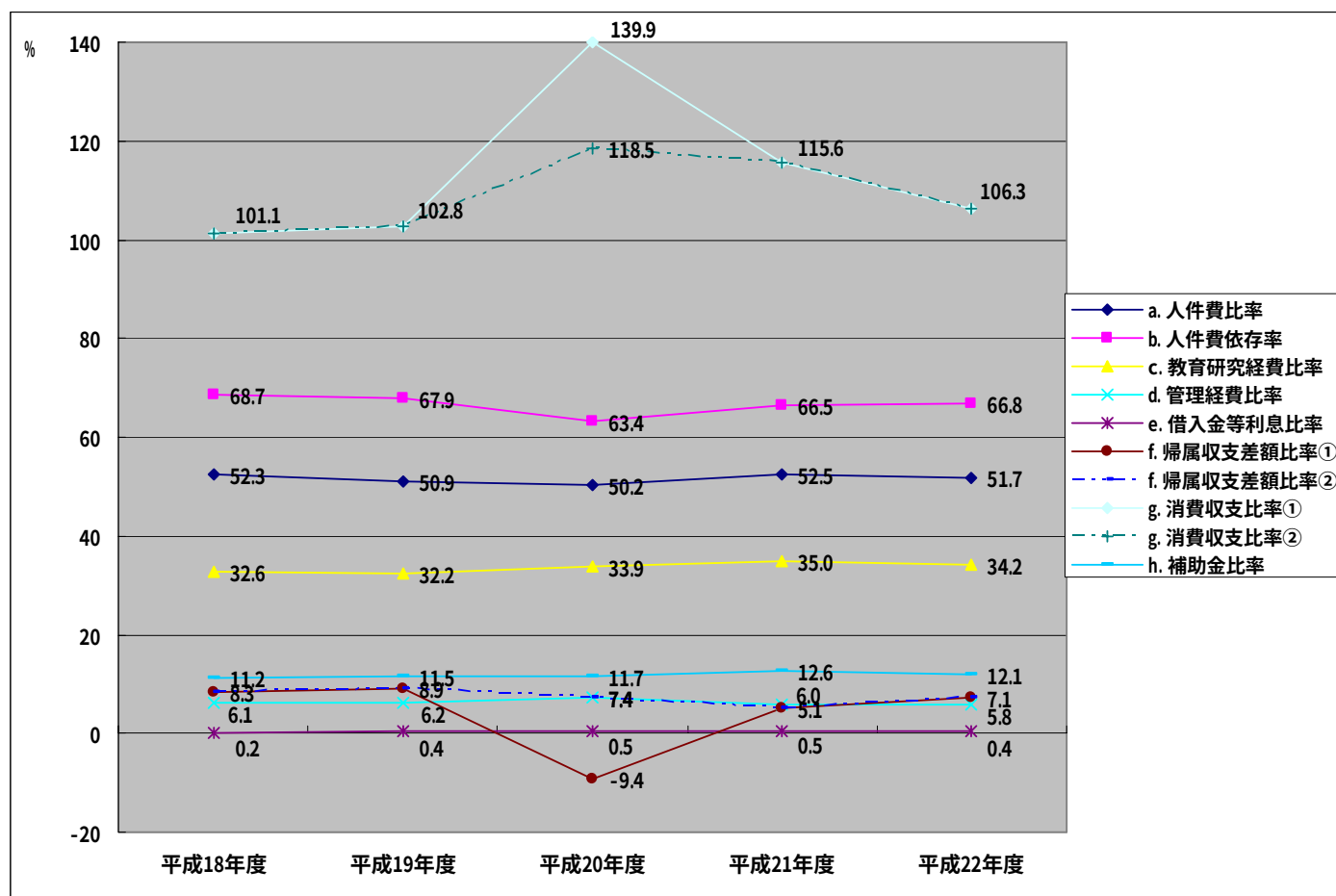
なお、これらの有価証券は長期保有目的のものであり、今後の教育研究活動及び経営計画に一切影響を及ぼすものではありません。

②財政状況の推移



5 経営分析

①消費収支計算書からみた経営分析

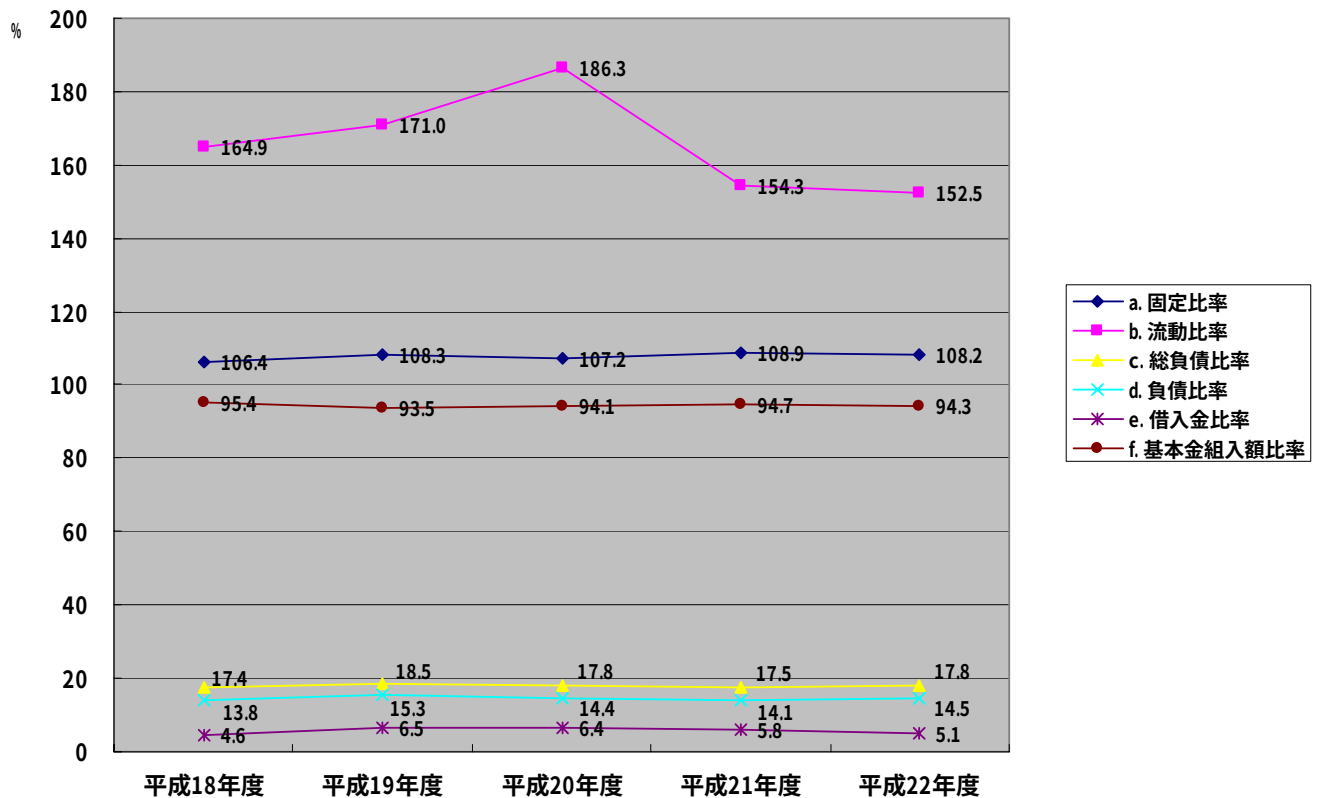


＊ f. 帰属収支差額比率② 及び g. 消費収支比率②は、

平成20年度 有価証券評価損 1,700,732千円を除いた場合の数値です。

指標	計算式	評価
a. 人件費比率	人件費÷帰属収入	低い値が良い
b. 人件費依存率	人件費÷学生生徒等納付金	低い値が良い
c. 教育研究経費比率	教育研究経費÷帰属収入	高い値が良い
d. 管理経費比率	管理経費÷帰属収入	低い値が良い
e. 借入金等利息比率	借入金等利息÷帰属収入	低い値が良い
f. 帰属収支差額比率	(帰属収入－消費支出)÷帰属収入	高い値が良い
g. 消費収支比率	消費支出÷消費収入	低い値が良い
h. 補助金比率	補助金÷帰属収入	高い値が良い

②貸借対照表からみた経営分析



指標	計算式	評価
a. 固定比率	固定資産÷自己資金（基本金＋消費収支差額） ＜固定資産に自己資金が投下されているかを示す＞	低い値が良い
b. 流動比率	流動資産÷流動負債 ＜短期的な負債の償還に対する流動資産の割合で支払能力を示す＞	高い値が良い
c. 総負債比率	総負債÷総資産 ＜総資産に対する他人資金の比重を評価する＞	低い値が良い
d. 負債比率	（総負債－前受金）÷総資産 ＜前受金を総負債から引くことで実質的な負債率を示す＞	低い値が良い
e. 借入金比率	借入金÷総資産 ＜総資産に対する借入残高の比重を評価する＞	低い値が良い
f. 基本金組入額比率	基本金÷基本金要組入額 ＜基本金組入対象資産額に対し組入済基本金の割合を示す＞	高い値が良い